

野津原方言集

続
12



表紙画《ちぎりえ》……………後藤ヨカ
題字……………姫野順子

★ ご協力いただいた皆様 ★

内藤忠人様、小野肇様、河野和夫様、佐藤昌史様、
利光節子様、佐藤吉晴様、一万田充重様
後藤熊五郎様、以上故人。

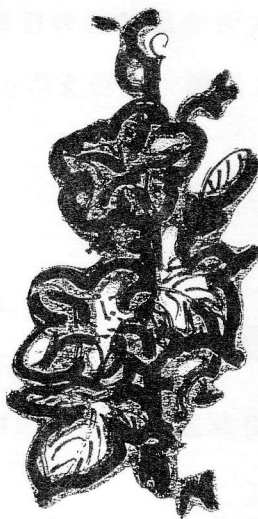
岡本政雄様、寺司勝次郎様、川西哲男様、後藤ヨカ様、
上村仁様、高崎幹男様、杉崎高喜様、加村和真様、
秋吉和行様、秦利彦様、佐藤喜久代様。 住田政利様
九州電力大分支店様

★ 利用させていただいた資料 ★

野津原商工会青年部、女性部資料。歴史記録会資料。
街道物語資料。野津原文化財調査こぼればなし資料。
大田公民館あの日あの時資料。野津原文化協会資料。
九州電力大分支店。ななせの里いわれと伝説。

目次

見だし……………	1	ちょいと一服	
目次……………	2	梅の種に天神様……………	6 6
はじめに……………	3	桐を植えた親心……………	6 7
方言単語あつまれ…あサ……………	5	物の地域の呼びかた……………	6 8
		三国峠の人の出会い……………	6 9
	あユ……………	野の台のろし場……………	7 2
五助んあげな話こげな話……………		馬子歌街道物語〈2〉	
民話、伝承		赤岩の場……………	7 8
山峰経塔……………	2 2	瀬戸越え難所……………	8 1
樽戸石畳……………	2 3	諏訪ん聖地……………	8 2
栗灰 8 8 仏……………	2 4	水車小屋クモのえば……………	8 3
今畑石畳……………	2 5	方言単語あつまれ	
泥つけに逃げ回る……………	2 6	あラ……………	8 8
半夏水……………	2 8	イツ……………	9 8
水けんか……………	2 9	おわりに……………	9 9
女性の底力		伝言板……………	1 0 0
筆入れのご褒美……………	3 2		
おばさま森……………	3 4		
天使の身がわり……………	3 5		
潜在意識は輝きの源……………	3 7		
玉手箱			
電気、辻原橋……………	4 0		
石橋、駒掛け……………	4 1		
木の内水路……………	4 3		
方言子供ん世界			
約束守ったお兄ちゃん……………	4 6		
鬼の目にも涙……………	4 9		
浅内長者……………	5 3		
ふるさとん味			
江戸期ん宿場料理……………	5 8		
卵吸い物……………	6 2		



はじめに

続編 No 1 2号には No 1 1号に続いて『肥後街道物語』の第2回目になる 矢の原から壱山までの あれこれが盛り込まれています。馬子の五助さんが頼知と 温かい人情とを軸にした 歴史、伝承、民話、地元で実際にあった 逸話なども入って 一般の人には知らない 土地の脚本にでもなる ことばればなしがホロリさせる。

馬子唄か出てもおかしくないのですが 残念ながら音なしで 申しわけありませんが いつかヒョコット出会うと 唄が聞かれるかも知れません。今は掘割の坂と言う かつては山であったのが 明治の中期に熊本県道《現在の国道442号線》の 開通の時に掘り割って作った 峠道であり旧道は途中から 右上に上って矢の原通り道に出る。

ここに宿場形成して『お陣屋』を予定していたが 何分にも水の不便さが野津原に 変更の要因となった。この地域の道路の下には古い『石だたみ』が敷かれてある。年月の流れにそんな夢もロマンも 流されるごとく消えたのも 水不便さの悔しい思いで。だけに火災には極端に敏感 火の用心に秋葉様を奉り火難から逃れる そんな体制の火まわりは 長く続いていた。

生活道路の集合地点で いまもその構図は残っていて 人の集まりには至便な地点。諏訪村の行政機関や学校も ここに始まり現在も施政されている。由布市と豊後大野市との 中継地点であり大野文化は 山を越えて伸びている。庄内袂間の文化も入って竹田から 府内大分からと四辻に組み合わせる 場所で 理想的な『お陣屋』だったが いかにもせん……

方言単語の2回目…『あ⇒サ』から続く 例えば

アサガタ……………朝夜明けに

アサッテ……………明日の次の日

アサドマ……………朝ならば

アサンメ……………朝の間に

アサナリャ……………朝であるならば

アサメ……………朝の余暇に

このように 同じ朝でも続く言葉により 意味も多少変わってくる。ところが方言には それ以外に同じ文字でも 読み方が異なると意味もずいぶん変わる。

アサガタノ……………浅い形の

アサッテングタル……………少しおかしいような

アサドマ……………麻の糸などなら

アサンメ……………麻の目が

アサナリャ……………麻であれば

アサメ……………浅く植えたのが

このように文字は勿論 語尾やアクセント ニュアンスなどでも意味が 変わってくるので使い分けでは 面白い結果にもなりかねない。

女性の底力…過去や現在でも活動する していたなどの方を 仮名で紹介する欄。お手本にする事で生活や交際 生き方などに役立つ事が多いと思われる。

玉手箱…掘り出し物、珍しい物、案外知らなかった逸話、など ちょつと一休みする 地域のエピソードも 参考になり知識の受け売りにもなりそう。このように些細な事で広がる 文化とは常に新しくなる そんな意味があるのでは。その中に古くてもよい物があれば 取り入れて活用するのも 生活上手かも。人間は一生が勉強期間 知らないで損をしない為にも 知る事は自分を一回り 大きくもするものです。

はじめに

続編№12号には №11号に続いて『肥後街道物語』の第2回目になる 矢の原から櫛山までの あれこれが盛り込まれています。馬子の五助さんが頓知と 温かい人情とを軸にした 歴史、伝承、民話、地元で実際にあった 逸話なども入って 一般の人には知らない 土地の脚本にでもなる ことばればなしがホロリさせる。

馬子唄か出てもおかしくないのですが 残念ながら音なしで 申しわけありませんが いつかヒョコット出会うと 唄が聞かれるかも知れません。今は掘割の坂と言う かつては山であったのが 明治の中期に熊本県道《現在の国道442号線》の 開通の時に掘り割って作った 峠道であり旧道は途中から 右上に上って矢の原通り道に出る。

ここに宿場形成して『お陣屋』を予定していたが 何分にも水の不便さが野津原に 変更の要因となった。この地域の道路の下には古い『石だたみ』が敷かれてある。年月の流れにそんな夢もロマンも 流されるごとく消えたのも 水不便さの悔しい思いで。だけに火災には極端に敏感 火の用心に秋葉様を奉り火難から逃れる そんな体制の火まわりは 長く続いていた。

生活道路の集合地点で いまもその構図は残っていて 人の集まりには至便な地点。諏訪村の行政機関や学校も ここに始まり現在も施政されている。由布市と豊後大野市との中継地点であり大野文化は 山を越えて伸びている。庄内椽間の文化も入って竹田から 府内大分からと四辻に組み合わせる 場所で 理想的な『お陣屋』だったが いかにもせん……

方言単語の2回目…『あ⇒サ』から続く 例え

アサガタ……朝夜明けに

アサッテ……明日の次の日

アサドマ……朝ならば

アサンメ……朝の間に

アサナリャ……朝であるならば

アサメ……朝の余暇に

このように 同じ朝でも続く言葉により 意味も多少変わってくる。ところが方言には それ以外に同じ文字でも 読み方が異なると意味もずいぶん変わる。

アサガタノ……浅い形の

アサッテングタル…少しおかしいような

アサドマ……麻の糸などなら

アサンメ……麻の目が

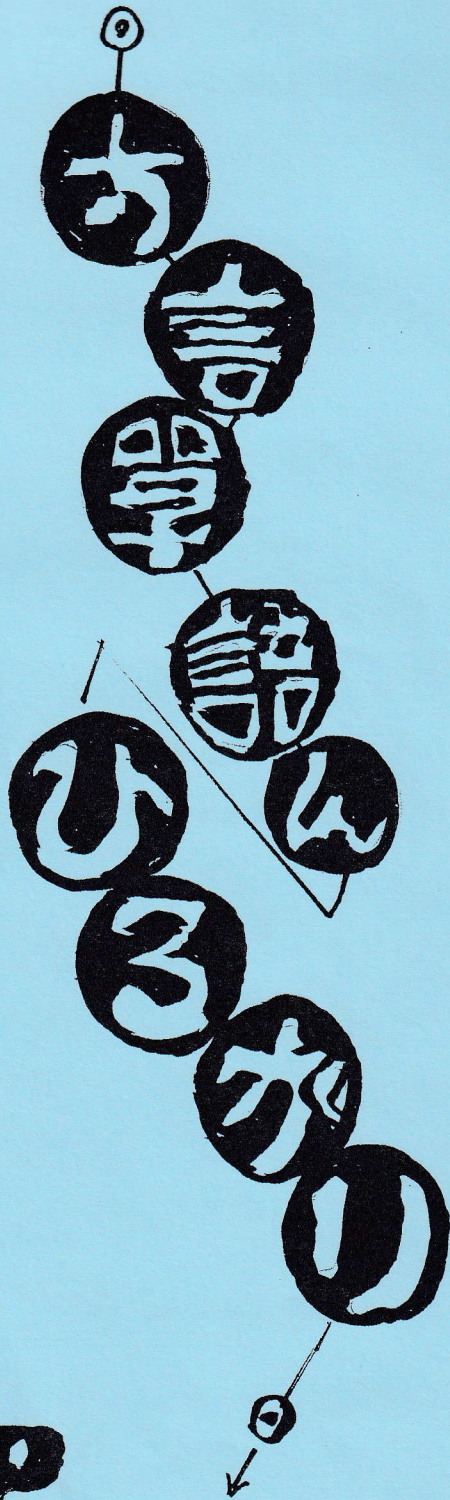
アサナリャ……麻であれば

アサメ……浅く植えたのが

このように文字は勿論 語尾やアクセント ニュアンスなどでも意味が 変わってくるので使い分けでは 面白い結果にもなりかねない。

女性の底力…過去や現在でも活動する していたなどの方を 仮名で紹介する欄。お手本にする事で生活や交際 生き方などに役立つ事が多いと思われる。

玉手箱…掘り出し物、珍しい物、案外知らなかった逸話、など ちょつと一休みする 地域のエピソードも 参考になり知識の受け売りにもなりそう。このように些細な事で広がる 文化とは常に新しくなる そんな意味があるのでは。その中に古くてもよい物があれば 取り入れて活用するのも 生活上手かも。人間は一生が勉強期間 知らないで損をしない為にも 知る事は自分を一回り 大きくもするものです。



方言単語あつまれ……………ここには『あサ⇒あユ！』
までが 並んでいます。

方言と言っても 必ず野津原に生まれ 育ったかは疑問で
すが 先人が長い間使い その途中で心のこもる 機会には
少しずつ変化する。長い年月にはそんな 歴史をたどって今
も 受け継がれているのです。だからこれからも 大事にし
る心くばりと 責任もあるように 思います。

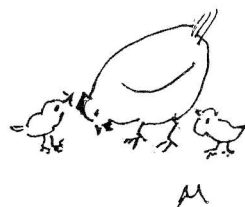
方言集の性格上 現在は使ってはいけない 差別用語や
卑下する言葉 もしかすれば方言ではない などの方言も入
っていると思います。

野津原に生まれ育った。それ以外の方言。外から入って来
て 大事に使われている方言。そのまま定着して 野津原の
方言になった言葉。それらも 今回は全て記録に 残す事が
目的の為に 入っていますので 何とど ご了承ください。
優しく情愛のこもった 野津原方言プラス 以上のような
方言も含めて どうか可愛がってください。

折角仲間いりした方言 これから先にこのような 調査な
どされる皆様の 何かお役にたてば 何よりの幸せです。

多くの皆様の支援 ご協力により 約12000語が紙面
に 顔を覗かせますので 愛してください。

方言は故郷の手形 大切な身分証明かも
知れません。訛があったりするのも 情愛
が滲む何よりの証。だから方言大好きなの
です。野津原方言にはそんな 妙なる味わ
いも秘めています。



アサメー……………早起きの、朝の間に、朝の余暇に。
アサメーデン……………朝の間にでも、朝の暇時間に。
アサクソキリ……………朝の草きり、朝間仕事の草きり。
アサッテン……………中途半端な話、次の次の日。
アザバナサカスンナ……………無駄な花は咲かせない。
アサッチャ……………いい加減な発言、次の次の日。
アサカルヤ……………朝からですか、急に朝早くから、予想外な。
アサゲーリ……………朝に帰る、浮気したのか、酔いつぶれたか。
アサヤメ……………朝の山仕事、朝早く山仕事に、朝方の色遊び。
アサヒバタ……………畑は朝日があたるがよい、陽受け畑は良作。

アサッテンコツ……………2日後の事を、先の事まで。
アサンメ……………朝の間に、早めに片づけて、とっさに整頓。
アサガタン……………朝はじめのうちに、夜明けの頃に、明け方に。
アサグマァ……………朝がたの雲は、朝の蜘蛛は縁起がいい。
アサン……………朝の、朝はじめの頃は、朝の平穏な情景。

アシュカキシコ……………汗が流れるごと、汗まみれになって。
アシタモアルキ……………新しい日もあるから、慌てずとも明日が。
アジュオボエチ……………悪知恵が、旨い話を知ったから。
アジガシイジョル……………味が染みて、いい按配の味。
アジュウシメチ……………奥の手を察知、見破られたか。
アジュー……………味を、かがとを、滅多にない味を、妙味を。
アシグシャ……………蹴る仕業、足をすぐ出す、足で乱暴する。
アシュウ……………足での仕種、足がいたずら、汗を流す、汗を。
アシンアタノコスナ……………足跡が決め手、思わぬ失態。
アシュクネラケーチ……………足を捻挫する、慌てて足を痛める。
アシガネエキ……………車がないから、都合ん便がないから。
アシュナゲダス……………足を出して座る、行儀のわるい姿勢。

アシタッシャ……………足が丈夫、健脚、足が強い、足軽い。
アシガツッチ…足のけいれん、足がひきつる、足が急硬直。
アシガヌリー……………足が遅い、歩き方が遅い、早歩きが無理。
アジタッシャ……………味にかけては達人、味付けが上手。
アジズモウ……………味で自慢比べ、自慢の隠し味の持ち主。
アジナラシュ……………味になじませて。味を覚え込む。
アジツクリ…味の基礎を作る、調味料作り、隠し味の天才。
アジクシュ……………味に個性が、独特な妙味。
アジュオウチ……………かぎつけて、察知が早い、味を覚えて。
アシクズス……………あぐら座りをする、足を楽に座る。

アシユヒコズル…足を痛めて不自由に歩く、ビッコを引く。
アシユ……………足を、汗を、続く言葉で変わって行く。
アシナサ……………明日の朝、明日の明け方、あしたの早朝に。
アシユタズル……………足を湯などで癒す、足を暖めてあげる。
アジオウチ…味をしめて、味を覚えて、弱音につけ込んで。
アシタドマ……………明日にでも、明日になって、明日までには。
アシツギユ……………踏み台を、踏み継ぎで。台を利用して。
アジュウ……………味をしまったもので、二度ある妙味、忘れぬ味。
アシナコ……………足半分の簡単な草履、野良用の短い草履。
アズフムナ……………かがとを踏むな、かがとを踏まぬように。

アズクリャアンシン…預けておけば安心、信用できるから。
アズキャニエタカ…小豆は煮えたの、小豆は煮えましたか。
アスウジョツチ……………遊んでばかりいて、遊びもほどほどに。
アスウジョリャ……………遊んでいれば、よく遊ぶようで、遊び。
アズキメシャ……………赤飯はできたか、小豆ご飯できた。
アズカタミ……………おこわご飯、あご固めて、お恐は固いから。
アズキューユウ……………小豆をよく煮て、上品に煮て。
アズキタイ……………赤飯に鯛はお祝の膳、めでたいようで。
アズケチャル……………預けておきましょう、預けておけば。

アズカラン…預かっていない、預からない、心配だから。
 アスブ……………遊ぶ、遊んでいる、遊びましょう。
 アスブナ……………遊ばない、遊びなさんな、遊ぶとだめ。
 アスージ……………遊んで、遊んでばかり、遊ぶのはよいが。
 アスンジョル…遊んでいるが、機嫌よく遊ぶ、世話ない。
 アセボデン…あせもでも、あせもが出来て、気をつけよ。
 オゼモチャウユンナ……………畦の側は植えない、空間を作る。
 アゼマシュウイ……………増し畦にも植えつけ、儲けの分に。
 アセツチョケ……………返して乾かす、天地変えてして。
 アセラニヤカワカン……………裏返して乾燥、日光と空気を。

アセボニヤモモンハ……………あせもには桃の葉が妙薬。
 アセモデラン……………汗も出ない気温、汗も出ずに済んだ。
 アゼマミュ……………畦に豆を植える、畦だけ儲け分。
 アセカキャ……………汗をよく流す体質、頑張っって汗を流す。
 アゼヌリヤネンイリ…畦は念入りに塗って、水漏れ用心。
 アセグリヤ…かき回して、探って確認、邪魔物をのけて。
 アセクル……………かき回して確認する、丹念に調べる。
 アセリボ……………庭の物干しに使う農具、天地返しして乾燥。
 アセー……………浅い、水が少ない川、付き合いの短い関係。
 アセミドロ……………汗を流しながら、汗まみれになって。

★ アセリボウ…筵干しする場合に干し物を 天地返し
 する際に使う 木製の農具の一種で



1. 5メートル位の棒の先に 幅1メ
 ートル位の波状の歯がついた 農具で
 芴干しなどに効果があり 大切な農具
 で使い古すと光沢も出る。

アゼバナ……………畦の先端、畦の端の方で使いにくい場所。
 アゼゴンツ……………畦が固くて利用しにくい場所。

アソー……朝に、浅く、あゝそうですか、なるほど、はい。
アソマキャオランド………浅く撒くと芽がでないよ。
アソマッチデレ……朝を待ってでなさい、朝になっち出発。
アソシキャイテェ……浅く敷くと痛い、何でも程度もので。
アソウデンハユル……浅くても芽はでる。特徴を掴むこと。
アソバンジ……遊ばないで、仲よく遊びなさい、すぐ帰りよ。
アソソングラン………遊んであげない、仲よくしないから。
アソコラ……あそこあたりは、あのあたりは、あの家では。
アソバレン……遊ばれないから、忙しいので、都合が悪い。

アゾー………かかとを、肝心な所を痛めて。
アソソジョケ………遊んでいなさい、ゆっくり遊んで。
アソビダッタ………遊び疲れた、夢中に遊ぶものだから。
アソボーヤ……遊びましょう、遊ばない、仲よくしましょう。
アソバシイ……遊んでください、遊ばせて、遊んでもらって。
アタリナゲーチ……あたたまま流して、荒々しく流して。
アタリサゲーチ………当たり回して、当たり散らかして。
アタメケノネェゴツ……悪口雑言を言って、難たれ口を言う。
アターシッコル……後の事は心配せずとも、万事任せて。
アタメキタ………腹立ちまぎれに、気に触る事を言われ。

アタモカカエチ……どうにもならぬ心配事、悩みが多くて。
アタデクルデ……急に来るから、予告なしの来訪、吃驚する。
アタリヤマクルド……櫛などに皮膚の弱い体質、用心正解。
アタダヨダッチ………急にはじめて、咄嗟の思い付き。
アタリクリマエエチ………当たり回して、愛撫も程々に。
アターシランド……後は知らないよ、責任はもてないから。
アタンナ……当たらないで、当たると壊れるかも、触るな。
アタモウ………後はなんとか、後の事は心配せずとも、後は。
アダハノ……実らない花、折角苦労したのに、失敗もある。
アタマン………頭の、頭に関係した事情、頭の役割などに。

アタリ……触る、触って、この周辺、ここらの場所、接触。
アチスリヤ……宛にすれば、当て布にすれば、当てておけば。
アチーニユウスル……暑いのに頑張る、厚いのによく出来る。
アチャサン………外人さん、外国風に着飾った物売りの人。
アチニャスンナ………暑い時は休みよ、熱いのに入るな。
アチーキヤケハト……熱かったので火傷する、油断して火傷。
アチサレテンコマル……宛にされても迷惑、人に頼りすぎ。
アチシタバチジャ………当てにした罰、自分で努力しないと。
アチヘレウイィ………あちらがわに植えて、向こうに植えて。
アチスリヤソン………当てにしては損もする、自分の努力で。

アチコチュ………あちらこちらに、各種の場所に、散らばって。
アチタユウテン………暑いと言っても、熱かったと言うても。
アチー………熱い、暑い、厚い、暑すぎる、厚いもので。
アチーナ………暑いですね、熱いようで、厚くて大変。
アチスンナ………宛にしないで、あてにしても無理なの。
アツミリヤヨゴジョル……跡をみると曲がってる、足跡が変。
アツデン………厚くても、熱いながらも、暑さの中でも。
アツウナッチ………厚くなってしまふ、熱いのも仕方ない。
アツクルシイ………厚くてむしむしする、暑くて寝苦しい。
アッチアラレン………そんなはずはない、予想以上の話題。

アッチイッチャイイゴツ……おしゃべりの口に戸は立てれぬ。
アッチュミイチ………あちらを向いて、知らぬ振りする上手者。
アッチヨカリャコス………あってよかった、捜し出して安心。
アッテンアラレン………信じられない話、そんなはずはない。
アッテン………あったとしても、あれば幸いです、あっても。
アッチシネ…………あちらの方に、方向がちがうけれど。
アッコンシャ…………あそこの人は、あの家の人たちは。
アッチコッチ…………あちらこちらの、それぞれの事や人や。
アッチサネ…………あちらの方向に、あっちに向いて。

アッパイ……………美しい、器量よし、きれいになって。
アツカリャ……………厚いなら、暑いですか、熱いようで。
アテズッポガ………予定はないが、出たところ勝負、もしかして。
アテラルリャ……………指名されたら、見つかってしまう、接触。
アテコスリャ……………皮肉な言い方、思わぬ被害に、にがりぐち。
アテコマ……………馬の種付け、春先の種付け馬。
アテンボカ……………嘘でもあたれば、知らなくても知ったふり。
アテーシチミヨ……………当てにしていると謎かけ、手助けを。
アテギ……………内緒で、副木、添え木して、介添えしてやる。
アテブセ……………かまぶたぶせ、俄か補修、上から当てて繕う。

アテモノージ……………迷ったあげく、当てにはしてないものの。
アデツクロイ……………畦の補修、畦普請、畦を丈夫にする。
アデマミュ……………畦を利用して豆を植える、畦に植えつけた豆。
アデナリャ……………無駄になっても、迷惑かも、実らないまま。
アトアト……………これから先にも、将来の、尾を引かねばよいが。
アトゲタミレン……………次の月は知らない、後の面倒は見れん。
アトニシチクンナ……………後にしてください、少し待っておくれ。
アトオイシチ……………後悔するほど惜しい、逃げた魚は大きい。
アトンメニ……………後の間に、この後に済ませよう、後の仕事に。
アトオシナンチャ……………勿体ないような、悔しくて惜しい。

アトアドゲナロト…後のことは知らないから、責任もたない。
アトダチャガイトクエ…遅きたから沢山食べよ、遅刻の大飯。
アトダチンノミスケ……………決まって飲み助は遅い、始末の悪い。
アトモクモネエ……………後も気にせんで、遅れても平気。
アトオシイチ……………ついて行きたがる、残されるのが嫌い。
アトビキヤ……………注ぐのに滴が落ちる、漏れがあって気使い。
アトクチャ……………食事の後は、一言多い性格、憎まれ口。
アドダコ……………かがとに皮膚の固まり、足を酷使した証。
アトクチ…後口が憎まれる、一言多くて損をする。漬け物。

アトンカキ……後の仕事のために、次の仕事には、遅れた罰。
アナンナコウ……穴の中を、穴をよく見らないと、性器の検査。
アナンハテ……穴の回りの、穴の周囲に、危険があるから。
アナグリユ……穴掘りを、穴を掘ってる仕事、穴の回りを。
アナコスメイワク……穴ならばこそ迷惑な、潰さないで危険。
アナマトハヨナオセ……指の間の皮膚病は早く治さないで。
アナンソオジュ……穴掃除を美しく、穴がつまると危険。
アナブセ……穴の補修、小さい内に補修、傷の広がり早い。
アナプトウ……穴の補修、品が悪くてもかぶせ補修も長持ち。
アナタマカセ……一任、おまかせします、素人は理屈が解らぬ。

アニキンイレヂエ……兄さんの知恵づけ、頭がいい悪知恵。
アニヤンナ……兄さんは、兄さんは在宅ですか。
アニキャ……お兄さんは、威厳があるけれどさて。
アニヨミヤデージ……義理の姉さんは大事に、面倒見がいい。
アヌーホイジョケ……穴をほいで、穴をあけて、穴掘り。
アヌーホレ……穴掘りしなさい、穴掘りは任せて。
アヌーミタドガ……穴を見たな、隠し場所だよ誰にも見せぬ。
アネークワルル……穴に食われた放蕩息子、遊びじゃ金も。
アネサンカブリユ……可愛い姿のよく似合う、娘18番茶も。
アネジョンチエ……義理の姉さんの知恵袋、ようすりゃ報いも。

アネカルサキ……姉さんから先よ、年上の役得、妹と可愛いや。
アネイルイケカキ……土葬の穴掘り、中に入って供養する。
アネンホウカル……姉さんが優先よ、年上を大事にしないと。
アネサン……お姉さん、義理の姉さん、年上の女性。
アネコス……姉さんこそ頼り、姉さんを大事しないと。
アノホリャショワネエ……穴掘りか出来れば大丈夫、一人前。
アノーミシー……穴を見せない、ままごと遊びのうちはよいが。
アノジャワカラン……はっきり言わないと、言葉濁して謎かけ。
アノノドキャ……こそっと見たな、見えないところが艶かしい。

アノホギャ…穴をほげば、穴があきましたか、希望が叶った。
アノホシガル…すけべーは困ったもの、女性の後追い。
アバケメー…広がってしまって、始末がつかないのでは。
アバカラン…広がり過ぎて、收拾がつかなくなって。
アバカンゴツ…始末におえなくなり、どうにもならない。
アバレシコ…横暴になって、乱暴狼藉、騒ぎすぎて人に迷惑。
アバリユドチ…暴れようと、から元気をだして、迷惑人間。
アバレンノカ…騒がないのか、暴れ回らないのか、嫌われ者。
アバレチョケ…乱暴しておけ人間性が、人が取り合わない。
アバケチシモウチ…広がってしまった。收拾がつかない。

アバレグイ…乱暴な食べかた、無謀な食事の方法、暴食。
アビテーマナツ…水泳をしたい夏、熱くて泳ぎたい。
アビリデーチ…白状させた、煙りでいぶして口ぼこる。
アビタンナ…水泳したのですか、行水したの、水浴びしたの。
アビューヤ…水泳しようよ、水浴びしない、浴びたらどう。
アビチョケ…浴びていなさい、浴びたらどう、行水は夏の。
アビタナ…行水しましたか、水浴びはどうです。
アブラギユ…脂汗が出ている、働きすぎじゃない、汗と脂。
アプロウル…ずるこぐ、目を盗んで休む、内緒で休憩。

アブラギツチョル…脂汗が滲んでいる。頑張るから汗まみれ。
アブリャイイド…あぶったらどう、あぶって見ましょう。
アブクフキヨル…泡を吹いている、苦しいのでは、異常な。
アブルルカ…浴びられますか、浴びてもいいのでは、浴びよ。
アブクンジュウガ…泡のじょうが見える、泡だけでは。
アブー…つき餅、杵臼などをついた餅、正月餅、祭り餅。
アブタビー…餅を食べなさい、餅を食べたら。
アブンメントマ…昔の50銭銀貨、明治、大正、昭和時代。
アプロヒク…油をひいて滑りをよくする、錆び止めに。
アブリャコス…あぶって、あぶって食べる、陽に当てて。

アベチョキャイイ…浴びておけば、行水しなさい。汗流して。
アベタンナ…浴びましたか、行水したの、水浴びしました。
アベレンカ…浴びませんか、浴びれないですか、行水無理。
アベチョリヤ…浴びておけば、浴びているよう、行水中。
アベキリヤ…浴びられるでしょう、行水出来ますか。
アベルリヤ…浴びられるなら、行水出来ますね。
アベレタ…浴びれましたか、行水の感想はどう、気持ちは。
アベヨッタ…浴びていたの、行水していたから。
アホタラシュウジ…ばかばかしくなって、こんな事でよいの。
アホデンヤキタツ…呑気者でも取り柄はある、使いようでは。

アホラシュジ…馬鹿ばかしくなって、こんな事でよいの。
アホタンガ…本当にそんな事でよいの、いら立ちますね。
アホンゴタル少し…常識が外れている、しんじられないが。
アマジル…ぜんざい、小豆と砂糖の汁に餅ダンゴが入る。
アマヤカス…自由にさせると後悔する、時には厳しく。
アマタリ…雨たれに、軒先の雨の滴が落ちる、樋があれば。
アマチビ…甘みが勝った食べ物、味のバランスが悪くて。
アマシライラン…ぜんざいはいらぬ、もう食べ飽いた。
アマッチョリヤヤレ…あまってるならあげたら。
アマラニャワリ…あまらぬとまだ必要、あまらねば足りぬ。

アマッチコスヨケレ…あまったからよかった、足りない人も。
アマndenイイ…編まなくてもよい、編む必要はないから。
アマセチョケ…編ませておけば、編むのが好きだから。
アマジラ…ぜんざいは、ぜんざいはもう無いの。
アマランカ…あまりませんか、あまっていない。おかしいな。
アマラセニャ…あまらせないと、少し残しておいて、残して。
アマアマジャノウ…甘えん坊じゃな、甘やかし過ぎでは。
アミウチコブリ…網打ち魚捕りのおやつ、小腹足しに。
アミュツクロエ…網の補修を、網補修に加勢して、前準備。

アミドマツクロエ…網を補修せねば、準備しないと、網修理。
アミュウヒッカケチ…網を引っかけて、網が引っかかって。
アミデータラ…編みだしたら、網はじめたら、編むのが上手。
アミカトオボエタ…編む方法を覚えた、網みちを習った。
アミスキャ…網を作る、新しい網をこしらえる。
アムナムリド…編むのは無理かも、編むには技術が必要。
アムンガスキカ…編むのか好きだろう、編む趣味がある。
アムグリャ…編むのなら出来る、編むのは簡単、手慣れた。
アムナヒジケンド…編むのは大変だけど、編む苦労はあるが。
アムンガイイキ…編むのがよいから、手編みがやはりよい。

アムーミチョリヤ…甘くみていると後悔する、油断大敵です。
アメデンデクルド…雨でも出来ますから、雨天でもよいです。
アメジャキツゴイイ…雨ならよいから、雨降りなら好都合。
アメナラツゴイイ…雨天なら都合よいから、雨降りでもよい。
アメフリャイイノヤ…雨が降ればよいが、雨を待っているが。
アメガト…飴を、飴を買ってきたから、飴を食べませんか。
アメシズクンゴツ…悲しさ大きくて泣きじゃくる、悲憤の涙。
アメンナコ…雨の中をようこそ、雨天なのにご苦労様。
アメフリャチカタマル…雨で地が固まり運がよい。恵みの雨。
アメシズクン…よほどの悲しさなのか、泣きじゃくって。

アメーヤツジャ…平凡な人間性、たいした事はない人間。
アメコツイヨルト…油断していると、うかつな事は言わない。
アメニャミナクチュ…雨降りは水を少なく調整、排水に気配。
アモウミリャ…油断していると、呑気にしていると大変な目。
アモウナツタド…甘くなったよう、鉄がやわくなったよう。
アモカリャクエ…甘いなら食べられる、甘いなら食べよ。
アモウデンヤラン…甘いからあげない、欲張りの貧乏性。
アモカリャイイジャネエ…甘いならください、おいしそう。
アモウセチナギー…本当に情けない、どうしてこんな事に。

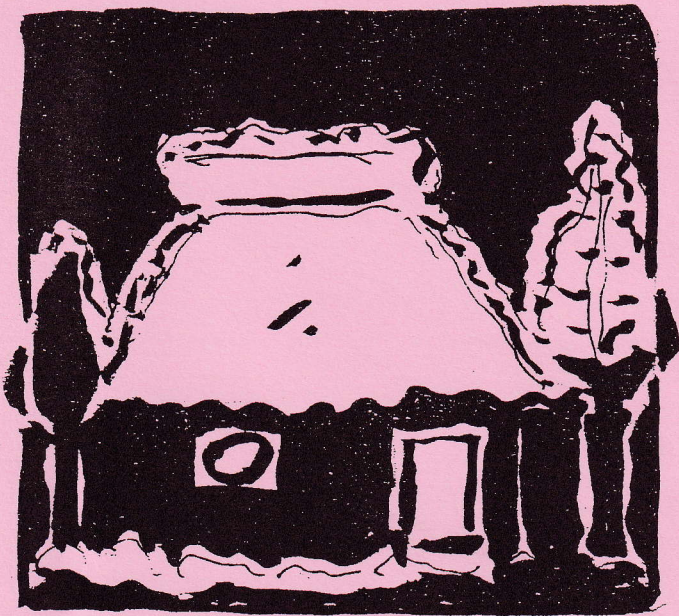
アヤワタネー…だらしがなく品が悪い、疲れきってしまったか。
アヤシャニイル…あやしておれば寝入る、子守上手の奥の手。
アヤシチョケ…子守上手にしてあげて、遊び相手になって。
アヤマリャユウスル…お詫びすれば納得もゆく、上手に使う。
アヤソドツオコシタ…寝つかせようと起こして。子守下手。
アヤサニャ…あやしてあげると落ち着く、子守上手は特技。
アヤスナドゲカ…子守の手裁きは、信頼があれば安心する。
アヤスカエ…収穫しますか、コギ落としますか、脱穀する。
アヤスンカ…収穫する、脱穀しますか、こぎ落とす。
アヤソウトン…脱穀しますよ、こぎ落とします、穀と実と別に。

アヤカセ…あやして別々にする、脱穀して別々にする。
アヤス…脱穀して、穀と実と別々にして、収穫する。
アユージケール…歩んで帰ります、徒歩で帰る、歩きながら。
アユジョル…歩んでいます、歩きながら、みんなと歩く。
アユンナイイガ…離れて落ちるのはよいが、落ちるのはようが。
アユルゴタルノウ…落ちるようです、離れて落ちる、独りでに。
アユムトギナル…歩く話し相手に、歩く相手に、友達になって。
アユメンナラヤミ…歩めないのならやめたら、無理は禁物。
アユメルルカ…歩めますか、歩けますか、歩く事が出来ますか。
アユモードチ…歩こうと思って、伝い歩きが出来、歩くよう。

アユーカーン…落ちるかも、離れて落ちそうだ、落ちてくるよう。
アユードン…歩いても、歩けるようになった、あるけるようだ。
アユカリャ…青いなら、青いようだが、青いのは早いのでは。
アユルゴタル…落ちるようだ、今にも落ちそうだ、落ちますよ。
アユートンニロトン…和えても煮ても自由に、気ままにどうぞ。
アユンナイチドキ…和えるなら一度に、あえるなら一緒に。
アユルゴタッテン…和えるようでも大丈夫かな、よくよく考え。
アユカンシレン…鮎かも知れない、鮎だろうか不安、たぶん。
アユミカクリャ…歩みだしたなら、歩むようなら歩かせる。

五助の

高野原話
八坂話



五助さんの話はそりゃもう

馬子ん五助さんがん 話が始まると なしか人が集まっ
ち来る。話ん珍しいのんあるが 話芸がなかなか達者じ 人
う飽かせんき 不思議な話かたでんある。が聞くしたちん
『聞き上手』もある。物事にゃこん 両方が揃やかす 人気
も出るもんでんある。

米ん相場は昔かる イノチキン基本でんあった。けど時
にゃ世の中ん 動きが激しいと そりゃ釣られち 信じられ
んごたる 変動にも見舞わるる。

野津原ん場合も 米が主流でんあったき 米ん相場が年ん
瀬の 決算にも響いち 悲喜こもごもん場面も。作り出えち
夜逃げ騒ぎも あるごたる 厳しい時代もあった。

小作人な サザメ納めち 残った米を売る ツケにしちも
ろうちよつた 借銭ぬ払うと 残りは少ねえもんじゃが そ
れなりんイノチキ。それも呑気にゃされんが なるようにし
かならん そげ一思や腹も立つめえ。明日ち手をかけん日も
あるもん。

『どげーな タマリャヨカッタ』『いんげ 今年ん節期ゃ
越せれめごたる』『ちっとぐれなら 食ちよきなよ』『おお
きに！ 仲良しん奴が 困るごたりゃ
米は食うちよきよ。ち言うちくるるき
泣けちくる。『どうでん困る時よ頼む
き』『いいぐれか 心配せんいいき』

寒空に暖い風が吹くのん こげなし
がおりゃこすん事。ありがてーなよ。



入

米ん値段の推移 《天明時代から昭和56年》

値段ないずれも政府ん基本値段。こげな変貌ん流れん中じ農家んしゃ いつん時代も自分ん作った物い 自分じ値をつけられん齒痒ゆさ。長い時代ん士農工商た 聞こえはいいが今思うに昔も今も 格差社会はのうならん宿命かん知れん。

それでん第2次戦争じ破れた後 一時期にゃ『ヤミ米』が幅を効かせた事も。ヤミブゲン ヤミ成金の名言がちいたが それも元ん本阿弥なつたしもあつた。そしち減反、減収、輸入米、凶作ん外米、瑞穂ん国ん農地が泣いちよる。農地だけじゃねえ治水かる響く 国土興廢にならにゃち心配。しよわねえんかなあふんと。

こぼした米粒あ拾って食べにゃ 目がつぶるるたあ誠ん感謝ん念かるじやつた。お仏飯あげに行く時子供ん手にシヤち一たな お供えした子供にご褒美ち 食べてんよかつた。そりい仏飯さげたときん仏具んにおい 食感そげな優しい心が行き来する朝。心も洗わるる想いじやつた。

天明時代… 1782年 17銭

1833年 38銭

★1832年の人口… 2720万人じやつた。

それかる35年過ぎた

明治元年… 1868年 1円42銭

1978年 1円34銭 西南の役

明治21年… 町村制制度 1円42銭 黒田内閣

37年… 日露戦争 4円36銭

42年… 米の検査制度 4円になった。

大正元年… 1912年 8円32銭と変わっち行く。

大正9年…人口5500万人と 110年あまりん間え
倍になった。米は20円に。★大正8年にゃ
戦争米騒動も。大正12年…関東大震災も。

昭和元年…1926年 12円70銭

昭和16年…大東亜戦争 16円50銭

21年…1946年 戦後価格…220円

27年…3000円になった。

44年…自主流通米になっち 8218円になった。

20年あまりん仲間え 40倍になったが
機械力が入り農家経営は 終始バランスが
不安定になって 季節労務、兼業農家増も。

昭和56年…1981年 17603円 10年ほどじ
又してん倍に跳ね上がった。

こん頃ん農家ん生活カレンダー 5月頃…生活様式が変
わっち耕運機、出稼ぎ、茶の葉を工場に委託、ナイロンの
雨合羽、苗作りん土集め 託児所、自家用車じ在所加勢、
タバコ後地ん田植え、早く済めば季節労務行き、自然の花
がだんだんノーナッチ 希少価値がでちきた。

野津原村が町政施行したんが 昭和34年2月1日じゃ
き こん頃とダブルごともある。《約50年前》

昭和34年…県下の干ばつ 大分鶴崎合併問題あり。

35年…府内大橋完成。

36年…大分鶴崎臨海工業地帯1号地に九州石油が。
集中豪雨あり仏崎で電車埋没事故あり。

37年…県新庁舎落成。

38年…雪害農作物被害 大分鶴崎新産都指定決定。

39年…九州横断道路開通《13億》。

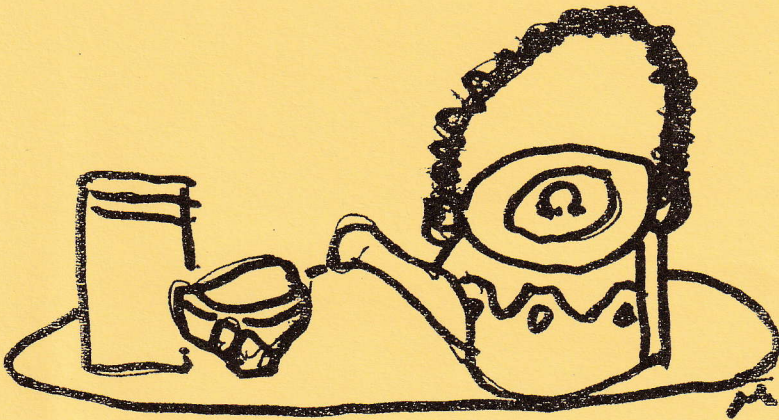
40年…農作物被害《31億》

◇◇◇ 方言説明…あげな話こげな話 ◇◇◇

18P こげな…こんな。土農工商…江戸期間にあった職種による格付けで 土⇒武士階級、農⇒百姓、工⇒職人関係、商…あきない 各種の商売 サービス業。これ以外にもあった。のうならん…なくなる。ヤミ米…正式な販売でなく内緒で高く売れた米。ヤミぶげん…ヤミ米を売って大儲けした人たち。ヤミ成金…不正な取引で莫大な稼ぎをして一躍富豪になった人たち。なったしも…なった人たちも。ならにゃち…ならなければと。ふんと…本当に。こぼした…うっかり落とした。つぶるる…見えなくなる。シヤ…ついうっかり。仏具んにおい…真鍮の独特な匂い。

19P あまりん間…あまった時間の。戦後価格…戦前と戦後との物価の変動による価格。機械力…農事関係の機械が多く取り入れられた。季節労務…農家の余暇に働きに出る労力。又してん…またしても。苗作り用の土…鮮度のよい土に種を巻いて苗を育てる方法の作業。ノーナッチ…なくなって。電車埋没…大雨による崖崩れで通り合わせた 電車が埋没被害にあった事故で この日通行止めになった観光客が 野津原にも7台とまって旅行中の 高校生が本町などに分散して一泊。電気が消え食べ物の備蓄も少なく 苦勞したが暖かいもてなしは 当時のニュースになり高く評価された。昭和36年平和が蘇ったとは言え 農村の暮らしは豊かではなかった。けれど育ち盛りの高校生に 空腹は無情と精一杯の歓待はした。関係者は永久に忘れられない 思い出になった。やがてこの電車も廃線となった。三重県の高校生たちで長い間文通が続いている。65歳くらいになるかもね。

民話 伝承



『民話、伝承、物語、言い伝え、夢とロマンの故郷』

野津原にゃ古くかる 栄えた史跡がガイト残され 大事に
守られ 受け継がれちよります。



地域にある史跡や 行事なん
か幾つか 表に出えちあぐる
ことじ 今まじ知らんままじ
輝く宝物のような存在が
多くの人たちに お目に耳に
かかり 入るんは何よりん
しあわせな事です。

歴史の影で知られんままじ消えたり 失われるるは勿体ね
え事んでんあり ムゲネエとん思われます。格別にオーバーに
取り上げんでん 素朴な資料かる優しゅ 見つめ直す時にゃ
今まで尽くしてくれ 人の心に施しちよる そん報いにもな
るち 信じちよります。

一つ一つん史跡、行事にゃ人の真心が
込められち 優しい心くばりが チョコつ
と生きちよるごたる。故郷を思い人々ん
幸せを念じた 先人の気持ちを大切にす
るんも 現世の人たちが 後に続く後輩た
ちに大切に 理解さるる種子を撒く こち
なるんじゃあるめーか。



苔むした一つん史跡に語りかけち
そっと 囁くと何か笑顔じ 返事
しちくるるんも 故郷ん宝物で。

山峰ん経塔

かつては大野文化ん三島の流れを 汲んでいたんか山峰にある 経塔にゃ京都じ修行しち 甲斐ん国かる要請されち 武田信玄菩提寺ん惠林寺に 入った僧が関わるもんじ 快洗和尚ち呼ぶ人じゃった。こん場所は経地とん言うち『经文と法衣』が納められちよる。

寺が火災に遭遇した際にゃ 『心頭滅却すれば火も又涼し』ち 詠んだち有名な話が伝わちよる。天正7年《1579年》の讃岐守ん墓石も 近くん墓地にあっち瀬戸内文化や 大野文化が交差しちよるんが 領ける山峰地域は合併前まじゃ 大野郡でんあった。

経塔ん周りにゃ塔群もあっち 華やかなりし頃が仄かに写しだされ 幸せん故郷が形成されちよつたごたる。朝ん謎めが遠くまじ展望こん上なしん 朝海《チョウカイ》はすぐ西ん高台にあっち ここら一帯を沢田ち呼ぶ。江戸期まじん優雅な暮らし振りが 伺えるごたるが……。

樽戸石畳

権現かる入倉に登る坂道ゃ 石畳みたたんだ道にゃ今も当時が 忍ばるる人ん手が残されちよる。浅内長者ん勢力全盛ん頃にゃ 主に西にゃこくゃ 東しゃ箕戸が本通りじ人やら 牛馬も激しゅ通っち 大野に続く幹線でんあった。自然石ゃうまい具合に使いまわし 道幅も広いもんじゃき そん見事な風格ゃ玄関口ん 趣もあつたごたる。

明治になっち宇曾神社ん鳥居も立ち ちつと下んほうにゃ1里2丁ん『道知るべ』も立つちよる。

こん下に広がる一帯を権現《ゴンゲ》ち呼ぶ。和銅はじめ頃かる栄えた地区じ こん頃疫病がはやりよったき 天徳寺なんかもつん寺もあった。やがて丹波かる白山神社ん神職も着任 神仏んご加護じ民安かれち 祈とうやらん 平和ん暮らしう願うごつなつた。

当時ん権現村は一の瀬川原かる 牟田一帯にかけち広が っち 寺町なんかも権現村寺町ち呼びよつた。のちにゃこん側にある愛宕山に 浅内かる大神系ん武将も来る時代にもなる。そげな地形じやつたき 人ん行き来も多ゅうじ 櫓戸越しん石だたみゃあたかも 通りん繁華道じやつたんじゃろう。

ここにゃ古くかる水路も来ちよるが 山ん中腹う潜っち 地区に出ちきちよる水。田んぼだけじゃねえ 生活用水にも使う知恵が働いたか。じゃがそん工事をいつ誰が したんか今だに謎になっちよる。書き物んもねえし記録も 残つよらんじ川上ん『豊後岩屋』といい 関わりがあつたとしてん おかしゅうわねえし そもそも何も記録がねえ事あ 残すと悪かつたんかそれなりん 理由もありそうじゃが 地元ん古老たちも口が固えんか 言われんのか全く知らんのか 謎が謎生む功績ん水路でんある。

そのち江戸期になっちちっと 上に新しい水路が一つ又通つたが こりゃあ農業用水と野津原宿場町ん 景観ぬ兼ね備えち作られたもんじ 許可がなかなか出らん難物じやつたごたる。先人が苦勞しちつくる水路にも こげなふうに隠さにゃならん宿命も 今となっち見りゃ罪なことじゃち 気の毒にもなるけんど いつん世でん表面に出ち 儲かる事やら影じ寂しく去る 運命なんか哀れさえ誘う。歴史は人が作るもんを 隠しちまじせにゃならんとは。

栗灰 88 仏像

善福寺が創られたんが安永2年《1774》 そん頃は
30戸あまりん人たちが 栗灰神社や寺院ぬ中心に 暮ら
しちよつたが 対岸の摺い行くなゝ谷いおれち 道が通じ
ちよつたが上がり下がりが おおごとでんあつた。途中ん
岩を背に88仏が まつられちよつた所があっち 美人の
尼僧がおっち88仏めぐりん 人たちが一夜を請うしも
あつたもんじゃき お灯がいつも見えよつち言う。

山深えこん地に祈願ぬ込めち 創られた88仏は人ん心
ん より所としち多くん人たちが 参っちおつたんかん知
れん。元文2年《1737》に建てられた 八角地蔵は村
ん入口にあっち村に入る 道知るべか疫病退散の守護か。
諏訪郷に入る主要道路ん一つじゃつたき 栗灰は栄えた地
区でんあつたごたる。南に向けた88仏は 苦難の人たち
う救う為にも きつと長え間ん年月う過ぎしたんじゃろう
。

今畑ん石たたみ作り

栗灰かる今畑まじ山ん南へロウ通っち行く 季節風を避
けち温い下り坂に入ると 近くん山ん石う並べた『石たた
み』が 今も形う残しちよる。領民が奉仕じ何日も出ち
作りあげた道ん検査が名主さんじゃつた。そげんしん目
にも働き者んが多かつたき そん出来映えもゆうじ お褒め
ん言葉も頂いたち喜ぶ。

諏訪郷8ヶ村ん中でん素晴らしい事じ そんご褒美に村
芝居が許さるるフレが回つた。古老に脚本ぬ書いちもらい
周りん 村にも知らせち2晩ん芝居は そりゃあ賑やこう
じ『お花』もがいとあつたとか。石たたみゅ通っち見にく
るしが多いもんじゃき 道ん石たたみが踏みしめられた。

誰ん知恵がよかったんか 日頃ん領民が心う一つにした
成果か どっちしてん村芝居は 願うたり叶うたりん喜び
じ 石たたみ道は見事ち出来あがった。芝居ん『お花』も
多ゆうじ道ん 落成式も賑やこう出来たそうな。名主さん
がん検査も皆んなが『いい道』う 作る思いが念者にした
き 終わりよけりゃ全てよしじ めでたしめでたしじゃ。

炭うウセ出すしが 苦勞したあん日

暗がった西ん山かる小粒ん雨 えーと窯だした炭う中
荷まじ オウセチ坂べろ下るが なんさま道が荒れち牛ん
足が 気になっちこたえん。『ドゥドゥ』こけんごつ気は
つけちよつたに 弾みじ小石がグラリ動いた。その時い中
荷が揺れた『しもた欲う張った』ち 思いよせんバサッ
牛んウッセ鞍が横たくりなつた。

そん時限っち雨も大粒になっち 早おす工面せにゃ荷も
牛も自分も びしょ濡れになっちしまう。炭もじゃが今は
そげんことどころじゃねえ。牛うやり飛ばしゃもう炭ん
チョロト売ってん元は取れん。慌つりゃ慌つるはず 手が
つけられんごつなっちしもうた。

『ふんと道がモチットよかりゃ』 オラブゴタル気持ち
じ 荷綱を思い切り引き抜ぐと 炭俵がガシャガシャ落て
ち 牛がたまがった拍子飛びで一た。『ドウドウふんと』
えーと押さえち綱お引っぱると 牛も落ち着いたんか止ま
った。雨は大振りなっちもう 炭お牛もびしょ濡れ。

あげんこたーこん道じもう 俺だけじノウナルじゃろう
。苦笑いする若者ん顔見た 肝いりが『すまんのや』 そ
ん心くばりん言葉が 若者にゃどんくれ嬉しかったか。

★ 方言説明

- 2 2 P 関わるもんじ…関わっていたもので。塔群…いろんな仏塔などが。されちよつた…されていた。
なしん…ないので。ごたるが…ようだが。こくう…ここお。使いまわして…上手に使いながら。
1里2丁…古い里程の表し方で 約4250メートル位。
- 2 3 P はやりよつたき…流行していたので。やらん…などの。そげな…そんな。じゃが…ですが。してん…しても。こげな…こんな。
- 2 4 P もんじゃき…ものですから。南へろー…南側部分を。フレ…知らせる。お花…ご祝儀。
- 2 5 P どっちしてん…いずれにしても、どちらになっても。念者…几帳面な、念入りに正確に。中荷…荷物の上に中央部に更に乗せる。オウセチ…背負わせて。やり飛ばす…うっかり飛ばせてしまう。モチット…も少し。アラブゴタル…叫んで居る、大声でなにか。あげんこたぁ…あんな事は。ノーナル…なくなる。

✳ 古い里程表

- 1里…36丁で 3927キロメートル。約4キロ。
1丁は 60間で 約109メートル。
1間は 6尺で 約1,82メートル。
1尺は 30,3センチメートル。

古い街道、参道などに 標柱があって 記載してある数字は現在の 距離に直すと 上記のようになります。現在はこの里程表は使われていませんが 昭和34年にメートル法が改正されて名目上消滅しました。

★★★ 『泥つけに逃げ回る』 ★★★

水ん少ねえ所あ一番しまいになるが 矢の原に来た時にゃもう7月に入ちよることが多い。半夏水ん手助けじ田植えもえーと 済んだ人たちや田の 泥んち一た苗お持ちち 諏訪ん役場えやちち来た。『田植え済んだで』 苗を役場じ働くしたちにコスリツケチ 引き上げち行く行事。毎年んことじそりゅう受くる人たち 苦勞した田植えん無事済んだ そん喜びゅ分けおったんじやろう。

小作地に植えた人たちだけに 地主ん人や役場んしも そん日が過げちはじめち 『田植えよこい』んフレを したとか。思い合うころん奥底にゃ お互いが支えあい助けおった 田植え時期ん素朴な行事でんある。役場んしたちもこん行事にゃ憎しみもねえ 故郷じいのちきゅする人間同志ん 優しゅうじ温かな人情か 醸しだされちよりもする。

さなぶり…田植えが済むと苗を洗い 荒神様に供ゆるんも嬉しいお礼ん報告じある。無事終わった事んほか 豊作も一緒にお願ひする。欲張りかん知れんが『よしよし』 苦勞したじやろうき多目に見らにゃの。苗半作ち言うごつ『植えたら半分出来たようなもん』 じゃちゃ水がひもじゅでん しゃんと水番ぬしち見回わりゃ 夏ん育ちゃ早えもんじすぐ穂が覗き くんずいちもくるる。

荒神様に供えた苗がうまい具合に 枯れた頃にゃ盆が来るき そん枯れた苗に竈ん灰をつけち 仏具を磨くとこれまた美しゅなる。神に供えちこんだ仏様ん道具う磨く 無駄んねえ百姓の暮らしん中かゝる 湧きでる知恵が心う豊かにしち 米づくりん苦勞を和ませちくるる。親子が孫が苦勞を楽しみに 置き換えるりゃそこにゃ 米づくりん力も湧くもん。

半夏水《ハンゲミズ》……6月じゅうに田植え出来んし
ゃ天水かかりが多い。自然の出
水がかりん田のことじ 困ったあげくん頃に降るんが 半夏
ん雨じそん雨んこつう半夏水ち言う。もう梅雨が明くるか知
れん 晩方えなりゃ空お見上げち 雨がドツと降らんかのう
。

そん7月に入っち俄か雲が多うなった 『来たど ありゃ
雨ど』ニコニコ顔じ飛びで一た 若いしが牛い鞍を乗すると
もう引きで一ち田に行きよる。『やんな早えのう』『遅い
あ誰でんするきの』こしゃくなこつ笑いながら言うと 足
あ早え。畑仕事ん忙しかったしも 雨とんなりゃ色めきたつ
もん。若えもんな馬力もいい。

自然たあゆうしたもんじ 早う植えたなもう色づいたに
これかる植ゆるなチット水がヒモジイ苗。じゃき追いつこう
ち育ちが早え。そげ一欲目じ見ゆるんじゃろうが それも欲
だけじゃねえ百姓ん意地かん知れん。乾き切った田の中え水
が 溜りはじめたき牛がもう先い 田の中えへーると畦草う
ヤシボ始めた。

『お前あ気が早えのう』 誰に言うともものう牛がハリコム
ぬ 嬉しいもんじ言葉になった。『お前も気が早えんじゃね
え』そげ一言うたか解らんが大けな 目ん玉じ横睨みさる
りゃ 凶星か顔赤らめち『さあやるかのう』。田に水が入る
ともうコッチんもん。鋤かき十文字田の中お牛も 心得たも
んじ足取りも軽い。

『水がとれたか』 近所ん若えしが牛う追いかけち 加勢
に来たごたる。『ありゃスマンのう』『ちよいと入るど』
牛う追いかけたんが田に入った 2匹ジやりゃ時のめに田は
植え代が出来る。『早う済んじ入湯に行くかのう』。

『水げんか』

田植えしたあとじ土用前になっち 雨が降らんと少ねえん水ん取り合い。水路尻ん方んしゃチョクチョク水が 途中かる来んごつなっちしまう。『くそふんと』 もう腹がたちばなしん夏 そりゃー解っよるんじゃが 上の方ん田のしが自分かたん田に せりくうじ水一杯貯めくうじよる。

『あんがきゃふんと』 性懲りもねえち思うてん水路ん尻じゃ手のほどこしようがねえき 足しげう上っちゃ水連れちくだる。運がいい時あうまい具合いに流れち 田に入る時あやっぱ落てつくが 途中まじ帰ったらすぐ 水が流れんごつなっちしまう。

『こんだこす堪えん』 鎌を腰せえち 井手ん土手を上っち行くと そんしが水口にしゃごうじ 自分かたん田に惜しげものう入れよる。側に行くと決まり悪そうに 『ちつと今入れよるき』 何と田を見りゃ越し出るくれー入っちょる。『そうかもう越しでよるでテーゲーニャ 下に流しちゃどげーか』

ばつが悪そうに水口う閉めちコソコソ……『ヨーシこんだ俺ん番じゃ』 そう言うと思ひ切り水口い栓ぬセリクウダ。水がおじいごつ流れくだっち行く。『へへえだもっ見よ いつときここじ番ぬすど』 流れ音う聞いちょりながら 横にゴロリなった。

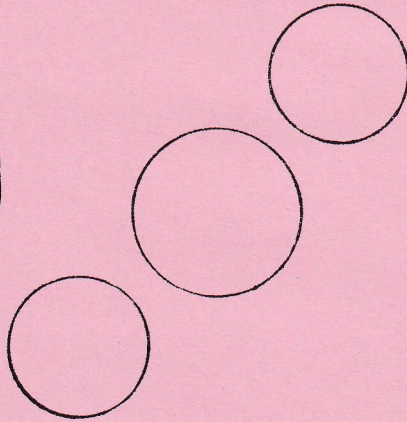
ところがサッキン若者が もうへモドッチ帰っち来た。『おらんごたるど』 水口に来たもんじゃき いきなり鎌お振り上ぐると 『なんかもう来たんか まあ早えど水は下まじゃ行っちょらんき やらんど』 『……』 睨みつけたもんじゃき こんだばかりゃもう 喧嘩どころじゃのうなった。喧嘩してんとてんもう……。

★ 方言説明

- 27 P 来た時にゃ…水路の上の方が植えると水がのびて水路の尻の方まで水が流れる。コスリツケチ…塗りつけて。しゃろう…でしょう。田植えよこい…田植えが終わった頃を見計らって 皆が一斉に休息する習わし…強制的ではないが。フレ…連絡。いのちきゅ…生活を。さなぶり…田植えの終わった行事で 世話になった人たちの家に餅を配ったり 若い嫁さんが里に休みに帰る風習。じゃちゃ…そうですとも。ひもじゅでん…少なくとも。
- 28 P 天水…自然に溜まる水。ドット…一度に沢山。やんな…お前は、あなたは。こしゃくな…生意気な。とんなりゃ…ともなれば。チット…少し。じゃき…ですから。ヤシボ…食い意地。ハリコム…働く、頑張る。コッチんもん…自由に出来る。とれたか…入ったか。スマンノウ…すまない。やりゃ…すれば。
- 29 P チョクチョコク…時々。くそふんと…糞にさわって。せりくうじ…無理に競りこんで。あんがきゃふんと…あの人にゃ腹立つ。こんだこす…こんどこそは。テーゲーニャ…たいがいには。どげえか…どうですか。だもうみよ…見たかそんな失態。ヘモドッチ…元に帰って。やらんど…あげないから。

米づくりをする農家の人たちは 苦労が多かったがそれに誇りと 責任を持って取り組んでいた。供出が出来ぬと強権発動に苦痛をうけ 米余りに減反を強いられる辛さ。田が役割を果たさないと 農地の役割だけでなく治山治水にも国土の荒廃にも 広がって行く危険性もある。

女性の底力



女性の底力

野津原の歴史の流れの中に存在した女性の底力は今も大きな役割を果たして来たがその功績はいつの世にもあまり評価されずそのまま忘れ去られ消えた例があまりにも多い。

方言集ではそんな人たちの中から少しでも現在人の生活参考になればと毎回数人の影武者を創作表現として登場して頂き一助ともなればと念じます。

今回も5つの話題や伝承から取り上げてその先人たちのご苦勞に感謝して遅れ馳せながらその勞をねぎらいたいと思います。

言うは簡単に出来る事もさて実行ともなれば格別な勇氣と実行力があるので人に知れぬ苦勞を乗り越えてこそ楽しい報いもきっとあるもの。だから人生楽しかったと信じたいものです。



女性の底力は古今の 和洋を問わず 評価されち来た。
古くは『天照大神』も 女性であったち言う。人類継承
はそん鍵も握ちちよるし たゆまん努力を積み重ねた
過去の歴史にゃ 数多く出る場面ごち 感激 感謝 心
ん傾注 基本となる技法 生きちよる証など すべてを
網羅した 生き方に生命力も 生かされちよる。

還暦になちち人間性が 画期的に変貌すりゃ そこに
ゃ女性ん生き方に 年輪が大けな実力ゃ 重ね合わせち
充実するもん。ゆうこん頃になると 潜在した底力が
頭角を表し予期せん 戦力にさえなちちくるる。野津原
でん年によちち 猛進するそん年生まれが 迫力を見せ
た事もあちち 頼もしい限りじゃつた。

そげな中から幾つが 取り上げち参考になりゃ そん
人たちでん嬉しいんじゃ あるめ一か。戦前までん苦勞
が 戦後まじ続いた。生活困窮 差別される世界 そげ
な苦難難関も 突破し切り抜け 生き抜いた実績にゃ
まさに 女性ん底力があつたかるじゃろう。

長え労働時間にも 厳しい現実ん世界にも 遺族とし
ち耐えた戦時下。母性が強いなゃ 精神力だけじゃねえ
高貴な 生き方ん出来る エネルギーも温存しちよる。
子孫を残すたみい 自分ぬ犠牲にする 食うのも我慢し
ち 貧乏にも甘えた 底力は過ぐりゃこす 笑い話にで
んして 譚むる事ん出来る。

笑顔 優しさ 優雅 香り豊かん女性 心豊かん姿
じゃき 今ん故郷も健在なんじゃろう。そりゃ忘れん
ごつせんと それこす岩戸が開まるこちなる。

女性の底力…『筆入れのご褒美』

戦地からまだ帰らん父親。母親が話す中であってん まだ
実感な湧かんままん月日は流るる。そしちマモノウ遺骨にな
っち凱旋。戦争ん悲惨さが大きゅうなっち 物心ちいた時哀れ
ん人生ん始まりでんあった。じゃけん不幸せんシャ数限り
のうおるもん。そりゅう乗り越えちこす 人生でんあり不幸
ん後ち 巡り逢わする幸せだちある。

皆なん持ツンニ欲望ん燃ゆる そげな時代ん中じヒョイ
ト 『思わんご褒美』ん巡り合わせが 乙女心う喜びん渦中
に招きいれた。顔見知りん復員した青年が 『これご褒美に
あぎゅう』ち 包みを渡しちくれた。何か役立てばち暇んナ
カメ 作っち近所ん子供にやりよった。『ほしい』心ん中じ
描くそん いじらしいぬ見ちよつた時ん 出来事じゃつた。

軽い中身じゃが開けち輝く 夢にまじ見た『筆入れ』が。
今ここにある 私ん欲しかった筆入れが。乙女心をこんなに
喜ばせる 可愛い筆入れ。どんな豪華なもんより今は こ
ん筆入れがどんくれば嬉しい事か。まるで天使から貰うそげ
な心境に でんなったんかん知れん。

あれから60年余りか 心にしっかり刻んだ生きてきた過
去そこん苦労も 惨めん時節もあったが いつも影から人
ん支えがある。そう思うと我慢も勇気も 頑張れる力も自然
に湧いちくるもん。たかが筆入れ……じゃがあん時んあん筆
入れん何ものにも変えられん大事な 宝物でんあったご
たる。

子を持ち孫を守りしながら 雲ん流りゅう眺むると白い雲
が 筆入れになっち中か 王子様が囁きかけちくるる。

物のなかつた頃ん木切れん素朴ん物でん 人ん気持ちが
通じ合うとき そりゃ宝物にも勝る物にもなちくるる。
子供心いいつまでん忘れがてえ あん日がいまでん脳裏う
掠めちゃ 消え 消えちゃ掠めち過ぎよる。心に残ったほ
んの小さな 筆入れでん忘れられん 寿命が宿ちよるん
じゃろう。

『カタコト カタコト』軽いリズムを奏でる 筆入れと
鉛筆の音が 年を重ねても童心を呼び起こし 懐かしゅう
甦るんから不思議でん。時折見かけると あん頃とちっと
も変わらん笑顔が あん貰った時ん時間が止まったごたる
気持ちにさせるのん 神様とちゃんと見守っち くれち
よるんじゃろうか。親の年を越えたが 不思議な人生の中
ん一期間は 振り返ち楽しい思い出になるな 幸せ人生
でんあるんじゃろう。

女性の底力…『おばさま森』

諏訪大明神が諏訪郷に居所を決めち 何年か過ぎた頃に
大水があち 同居しちよつた『おば宮』は そんな大水に
流されちしもった。じゃが川下ん川沿いに無事着いち 眺
めはいいし周囲ん美しい野山もあち いつんなかめえか
そくう安住ん地にしち 老いの身を過ぎしたち言う。

そのちに こん場所を『おばさま地』としち 心が残
った場所にムクン木を植え 社も築いたが長い年月にゃ
そんな社も形も木木も 姿を消しち石の床と 何代も蘇生し
続けるムクの木が 面影をとどめちよる。諏訪神社ん秋祭
に『大切に育てられた おばさま』に 挨拶に立ち寄りの
祝詞あげち お払い式が必ずされちよる。

女性の底力…『天使の身代わりか』

畑違いの農家に嫁いじ知的博学な 厳しい舅と渡りあうまじん 度胸と人間性が罷り通るような人生。裏じ泣き耐えた年月ん中じ 常に前向きん挑戦欲と 潜在する優しさ。それ故に苦労がのしかかる。負けん気が過重にもなる。しかし諦めは嫌いな性格が 時として頭角も現し支えられる 価値観にも結びち一ちよる。

情愛がこまけえき牛が好きに 相手を大事にする気質は天性とも 相乗効果をあげち 複合経営にまじ進捗する農家ん経営改革まじ軌道に乗する逞しさ。子供ん教育に熱意が幼稚園開園に 地域ん文化活動にも繊細じ 知力を生かす。可愛いげねえ舅に意志が通じん 優しさは天使の身代わりなんじゃろうか。

憎しみが情愛に変貌する人生ん 『終わりよけりゃ全てよし』人生じ 見送りした直前『お前に見取られち幸せ』ち 口にこす出さんじゃつたが 心ん底じどんくれ感謝しちよつたか。日頃ん生活ん中じふと漏らす 家族を褒められん語り部が伝わちよつた。人間な見かけ語りだけじゃ 酌量はでけん 真実は影じこそっと咲くもん。

夜半に口重とう足取りが気になる顔 意見が食い違う通じん歯がゆさに 若さもあつた過去ん明け暮れん苦労。それが良薬にもなる家族たゝ 計り知れん心ん絆が形成されちよるき。去りし人ん評価は時が過ぎちこす 真実も解るもん。そりゃ自分の心にも通じ大切にされた証でん。

振り返る四季ん移り変わりに 『ゆうまゝ辛抱出来た』ち人は言うが 気持ちに通じ合ゃあ 鬼神も避くること。

難関も突破出来るもん 天使ん身代わりじあるならば
人生の苦勞は甘露ん水にもなるんじゃろう。やんがちこ
人に『ご褒美』になっち 帰っちくるもんでんある。今
は幸せち言えるのん 自分じ作り出した財産でんある。
巡り会わせた 舅とん人生双六『すまんじゃつたのや』
鐘が鳴るたびに頭さげちよるんじゃねえ。

女性の底力…『出針は禁物』

出かけるごつすると 『あっしもったコハゼ取れた』
袖口がホコルウジョル、ちよいと針うつまみゃ簡単に繕
うな 出来るが『出針ぁ悪い』ちヤカマシイ。慌てち修
理してん品が悪い ひょうとすりゃ別人所い刺すかん。
針ん残る事もあるもんじゃき 口やかましい。

それにゃやっぱ 常日頃かるん心がけ 咄嗟に間に合
う心ん準備ん教訓でんあろう。日頃かるそげな考え方お
しちよりゃ 慌つる事もねえし人に貸してん 恥じうか
かんじ済む。済んだ時にきちんと 調べち次ん時ん準備
うする それが大事な事いつながるもん。

『しもった 忘れた』『何を忘れたんな』 出かけよ
っち財布忘れちしもった。出かけに金を借るなんか最悪
。いつも財布以外に少し別に 別けて持っている事は
心難い人生論でんある。分散することじ盗難なんかん
被害ん食い止め。咄嗟ん時に恥じかかずに済む 生活哲
学でんあろう。昔襟に縫い込む母親ん知恵た ゆう言う
たもんじゃが 金が敵ん世の中じゃ信頼が 時として恥
じ塗になりかねんき ご用心ぬせにゃな。

「郷愁七瀬川 小原水樋」

平成五年

玉糸箱



郷愁
七瀬川
小原水樋
墨色五
[Red Seal]

水墨画は酒井次郎さんの作品 続編No.14号表紙にも

◎◎◎ 女性の底力 潜在意識は輝きの源 ◎◎◎

自分じゃ若えち思っちょつてん 否応なし年あ付きまとうち来るが そりゅう気にせんじ過ごすのん 生活上手でんあるう。淑やかち思うとダンプン運転もこなす。竹う割ったごたるかち思う 従順な優しさん中え見る 芯の強さかる負けず嫌いもあっち 時にゃそん性格が邪魔をしたり 役にん立つ 人生双六たあまさにこげん人じゃろう。

文化団体ん発足かる参加しち 苦労も充分わきまえた気持ち ちゃ 今時ん若者にゃ珍しい存在でんある。地域ん唄ん曲うつけてえ時 ある名士に頼みくうだが 多忙か一蹴され 泣きて一気持ちうコンシに持ちくうだ。進んじ取り組むぬ惜しまん器量 将来頼もしい報いが受けちくれた。地獄ん仏たあこんこつか。むげに断わる心貧しさん片面にこげな現世。

故郷ん為んコンメー1曲ぐれは 朝飯前じゃつたろうに。結果的に後々大けな信頼まじも。『ほんな今かる取り組むきな』『もういいんな』『急くんじゃろ』『そりゃまあそうじゃが すまんなあ』『すまにゃ泳ぎよ』 誰かんゆう使う言葉が飛びでちドット笑うた。『でけたで あたあ五線譜に書くだけ 待つちよくな』『いんにゃ暇ん時書き上げち』

気性がそうさするんか 急くち思うた気持ちにん応えてえきか 人ん真心たあこげな時い出ちくるもん。『七瀬川愛歌』に続いちつけた『七瀬音頭』が 見事に生まれた。素人集団の唄でん故郷ん唄としちゃ 後世に残るもんでんあるき名は開き 実りが約束もされよった。

まさに年女ん気骨が開花したが 影かる支えちよる皆んなん 助け合う情愛は物や金じゃ買えん 宝物でんあるごたる。

祖母が世話好きじ面倒見がよかった。青年団時代に縁先じ音楽会を開いた。笑顔じゃつたがきつと そん音楽にゃ理解はでけんじゃつたろに 寛容な優しさがそりゃ許さん。人ん気持ち心う大事にする 崇高んまじ真心がこめられちよつたち いつまでん忘れられめえ。

そげな氣質か情愛ち言うんか 困ったしを見る聞くと 黙ちちよれん母性本能まじが 手を貸し足うサイデーチ人ん 難波を救う気持ちにゃ 回り回ち報いがお供まじ連れち ご褒美にもなったぬゆう聞く。人ん巡り合わせたあ不思議な 宿命かんしれんがこれが 人生でんあるんじゃろう。苦労は辛いが報いがあった時 そん苦労にゃ甘露ん味が 満ちあふれてんおるごたる。

寸劇ん舞台参加にゃ嫌われ役でん 芸人な汚れ役があちこす 主役は引き立ち自分がん存在も大きい。挑戦する気構え気持ちは自分ぬ 一回りも二廻りも大きゅしちくるるち 喜ぶ快感は幸せ人生とも漏らす。残り人生は50年じゃけんど 有意義に使えばもっちったああるじゃろう。

団体ん世話を頼もうち思うちよる 無理強いかん知れんがそりゃ 出来る才能博学繊細じゃき コナスじゃろうち皆んなも賛成じゃろう。あん唄がメエ年盆にゃ踊らるる曲うつけちよかったのん人徳ん 巡り合わせじゃろうが 断わるそん人も振り返ち 惜しみが出たちしてんそりゃもう 取り返しゃ出来んばかりか 今更文句言うてん騒いでん 時間な引き戻せん現実ん汚点。

こん年ん還暦ん女ごしゃずば抜けち 秀才がやり手が目に見えち多かった。なしか年回りがいいか 仕込んだ年がぐわゆう温もりがよかったんか 不思議な謎でんあるが。

ふるさとの玉手箱

今こそ有難いと感謝しているが そんな施設が出来たのには 先人の苦勞が積み重なっている。そんな宝物のような物があります。

野津原に電灯がついた。
柿の坂の危険防止の石垣が出来た。
辻原コンクリート橋が架かった。
木の内水路の水が流れて来た。



その隠れた歴史は 案外知られていないのでは 時代が進歩した今 そんな事は当たり前と 思うような画期的な施設が先人の努力によって 作り使い 恵まれた生活になったのである。

まさに玉手箱を開けて 輝く光は その先人たちの苦勞に感謝してこそ 光輝きを増すのでは。

人のやり逃げた事は 簡単に自分にも出来そうだが 着想や資金調達から 工事の進展に心身を 磨り減らすような心の苦痛は 金銭には変えがたいものでもある。

風化したように既に 痛み色あせていても 一粒の石にも一本の柱にも 人の真心が染みこんでいる。だからこれからも歴史認識と 大切にする感謝の気持ちが 故郷の香りを一層高貴にもしてくれそう。

そして更に故郷は 発展するだろうが 歴史の足跡は いつまでも 大切にしておきたいものである。



★ 野津原に電灯が灯る……大正10年11月《1921》
じゅつた。高橋菅太郎たちが主
になっち諏訪村に 電気を引くこちなっち営業許可を
もろうち九州水力電気かる 電気を買い電線があんげコ
ンゲ 張り巡らせちランプに変わっち 電気がチータ時
ぶもう文明ん恩恵に喜かうじ 高崎さんに感謝した。

一晩じゅうついちぶる裸電球じゅが 明りいのなんのも
う晩でん 尻んごつ明りいきいつまでん 起けちヨナベ
も弾んだち言う。そんなかわりチットん風でん 消ゆりゃ
もう朝まじゅ消えたままじゅつたが。野津原村ん権現ま
じ延びたけんど やっば採算な厳しゅうじ 結局昭和ん
15年《1940》になっち 九州水力電気《当時》が
近所ん7社を 買収しち現在ん姿になった。

それまじ矢原にあった会社は せん後も九州水力電気ん
事務所《のち散宿所》になり 昭和ん中頃まじ野津原ん
基地としち 大役を果たしよった。

★ そんな高崎が手がけた辻原橋……地区の交通不便なんとか
解決と 権現とを結ぶ橋
ん架橋構想が浮かび上がった。平坦め矢原に出てん稲荷
山越え 野津原に出るにゃ坂道ゃ 牛馬ゃ巧みにひいて
下る難渋な地区。昭和初期に矢原にゃトンネル開通 然
し野津原に下る道は長年の夢でん。明治中期ん熊本県道
工事ゃ拒ねたな 悔やまれてならんじゅつた。

こげな逸話も残ってぶる…県道が通ると《柿野坂工事が
大事じ辻原経由の話 だが道がよくなりゃ泥棒犯人が
横行するとの噂に断わったらしい》 執念はついに橋を
建設すれば自然交通至便な道もつく。昭和10年《19
35》高いピーヤが立ち 工事の槌音が山々にこだまし
た。そして12年の春にゃ落成式になった。

この橋の完成によっち春からん 小学生は野津原に通学になり 権現を通る子供たち賑やけーこと じゃが熊本県道が柿の坂を上るき 辻原橋ん利用価値は今ひとつ。そんな頃ん橋ん欄干にしちや見事ん 『洗い出し』技法がしちやっち 見にくるしも多かったち言う。

★ 駒掛け側壁……肥後往還が矢貫かる伊塚に上る こん坂をヨケチーの瀬に下る道 熊本県道開通ん時にゃ福宗川を渡り 法泉寺橋かる東に進んじ伊塚から下った 街道道ん中途に繋ぐと坂がちっと 楽になるち計画したんかん知れん。がそげー山中う通るよりゃ崖を切り取っち 一の瀬に出りゃち試作ん道になったんじゃろう。矢原ん掘割りも苦労したけど出来ん相談じゃねえき岩崩しになった。

固い岩石には難儀がおおかったが 割くずは落とせるき思い切っき切り落とした。が片へら絶壁片側は目の下は七瀬川。おまけに傾斜はひじい角度に 路面の土砂は雨にゃ惜しげもねえ流された。それだけじゃねえ路面のデコボコ 霜ん朝ん凍った土も惱みん種。

大分かる竹田に向けた馬車も 難所ん一つだけに『駒掛け側壁』が作られた。道路南がわん約100Mにわたり 幅約1.5M<高さ約1.5Mを切り石と漆喰じ固めた 牛馬ん暴走事故防止対策。それでん馬車んブレーキが 効かんじ暴走辛うじてこん駒掛けじ止まる。そんま突っ走ると下りカーブを 飛び越えち七瀬川に馬車もる共 ザブンと落ちる事もあった。

業者や関係有志が北側に奉った 馬頭観音には無事故ん願い込めち 参る人たちも多かったち言う。昭和後期になっちえーと舗装されたが 勾配のきつい道路ん苦労は今も 解消には程遠い宿命かん知れん。

★ 見上ぐりゃ素晴らしい橋……大正2年《1913》法泉
寺橋が 諏訪ん人たちん心
んプライド見せたような 見事な美しい橋になった。当
時ん金じ2万円じゃつたき 世話った長年村長やらし
た 三浦が有志に呼びかけち 野津原とん境にタマガル
ごたる橋。下かる見上ぐるとそりゃもう 石組みに白い
石を使うちやる。当時遊郭もあつた港かる馬車じ運び
工事請負者も泊まり込みじ架けた。そげなしも石風呂に
入ち大事しちくれたち 喜んだそうな。熊本県道にゃ
こん橋が女性的なら 男性的な眼鏡橋も小岩戸と下詰に
ある。があんまり知られちらんのも 惜しいけど下
かる見あぐる石組みにゃ 当時ん土工技術が誇らしげ。
後ん2つん橋は熊本県道ん 開通に合わせち架けられた
。

電気がひかれたり 橋が架けられるにゃどげ一言うてん
地元ん 有志ん底力とそり一協力する そげな人たちん
支えがなけりゃ出来ん。村長は『井戸堀』ちユウ聞くが
世話すりゃ止めた時にゃ井戸と堀だけが残った ち言
うくれ一精魂うちくうだもんじゃ。今は文明開花ん世の
中 変わったもんじゃち思うが、そこまじせんでん役立
つ世話 名を残す度胸もほしいもんじゃが。

方言説明…40P ランプ…石油利用ん照明器具。チータ…灯
る。ついちよる…灯いている。チット…少し。

41P 春からん…春からの。ヨケチ…避けて。そ
げ一…そんなに。馬車んブレーキ…馬車の後輪を手動で
締める方法。惜しいげもねえ…欲張らずに。

42P たちん…たちの。そげなしも…そんな人た
ちも。石風呂…石で作った風呂で沸かした湯を入れて行
水する。どげ一…どんなに。ユウ…よく聞く。

※ 洗い出し…塗って少し固まった頃に噴霧
状態の水で洗い小粒の小石を浮き立たせる。

★ 木の内水路……700年頃開けた権現地区に 水を引いた
苦労は山の中腹を 約1.5キロ殆どヌキ
を通っち出ちきちよる。そん工事をした労力も今も不明じゃが
それなりん訳があったんじゃろう。こん水路んチット下に又
一本 はじめん井関かる下がった場所かる ヌキじ来たんが
木の内水路じゃ。上線のポリ水も集むるき ケックシャよきい
来よった。

波多野権衛門が苦労したもんじゃき 完全なもんにして一き
肥後ん殿様に 再三願いを申し上げたが 願い叶わんまま死去
。事業は子供ん権十郎が28歳じ引き継ぎ さらに殿様に何回
もお願いをくりかえしよった。そん根気熱意はなんと76回。
そん事業ん偉大な事がえーと 認められたんが慶応4年じゃつ
た。

並々ならん苦労を貫いたち 嗣子孫孫まじ香華料を下付ち証
明されち 1回受領したなよかったが そん途端に世は明治ん
陸藩置県になっち 折角ん効力も消えちしもったち言う。前後
間200年あまり資材をつぎ込み 多くん力を寄せちもろうち
作り守った 木の内水路は忘れられたごと 今も美しい水を流
しそん流域も 約50ヘクター。当時を忍んじ建てられた碑
が 松ヶ崎に そっと当時う忍ばせちくるる。

野津原にお陣屋もあつた頃ん 回り水堀ん水もここかるん水
が そっと巡っち西側の流れ落てよつた。宿場町ん両側ん水路
にも流れ 冷たく美しい水は当時ん生活用水 防火用水にもな
りよつた。江戸期間にゃ恵良にゃ早うかる 水田が広がり稲作
ん広域場所でんあつた。

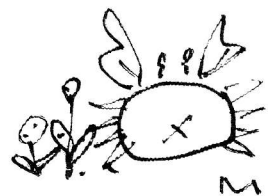
大正7年まじゃ竹や木じ作つた井関も コンクリート作りにな
なっち水量も多くなつたが 工法が粗末で洪水じ流失。

昭和9年の大干害にゃ苦勞もしち 西福寺住職が井關じ
祈願納経したら 満願の日に慈雨を見たと言う。水争いも
激しゅうじ生死ん人たちも多かつたごたる。そのち更に
井關ん改修昭和30年《1955》 トンネル改修と三方
コンクリ水路になっち 現在んごたる水量になった。

じゃがこん水じさえ大火に見舞われ 防火設備んねえこ
とじ 大けな被害が出ちしもった。※ 昭和38年の大火
《1963》2月27日冬期じ 水路修理などじ断水しち
よつたもんじゃき すぐ仕掛けに行つたけど 水ん到着
まじ時間がかかち 51棟全焼 罹災者119人損害額
27659千円 こん日大分の湿度62パーセント 最大
風速10.5メートルじゃつた。

ヌキンじゅう通るん途中じ チョコット窓んごたる場所
がある。工事中ん土うこっかる落としよつたんか そりい
してん長えぬまあゆう掘つたもんじゃ。記録残されんのも
理由があるんじやろうが そんな苦勞した人たちちつた
報いられたんか。取り入れ口ん側え岩屋がある 『豊後岩
屋』ち呼ぶけどまさか工事んしが ひょいとすりゃ寝泊
まりしたんか。詳しい記録も残されんあたりゃ 何か秘密
もありそうじゃが。

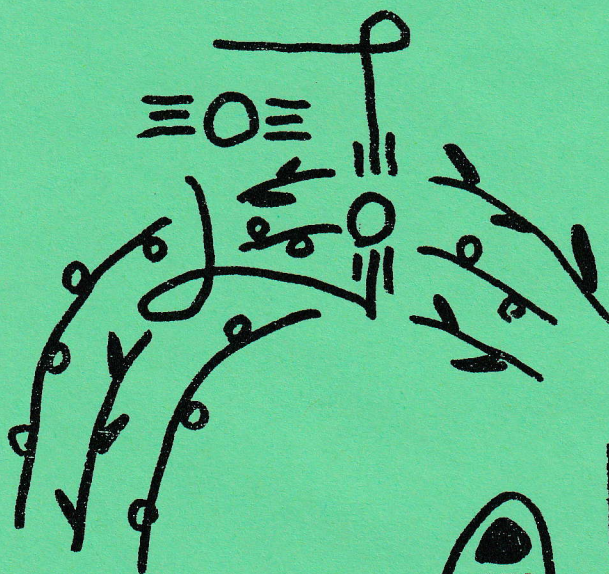
江戸時代戦後にゃ記録が消されたり 残されんじやつた
りするのん 哀れさも想い浮かんで 苦勞ん報いられん
のも気の毒でんある。せめて当時んご苦勞に感謝したいもの
じゃ。今の利便性やら恵まれた暮らしう 思うにつけてん
人間としちありがてえ事。



为 道 子



侠 火



世



恩

★★★ 純真な子供の育ち、行動、優しい心、それらを
より保って 成長して欲しいと 思い込めて
まとめた 『方言子供ん世界』です。 ★★★

子供の読み聞かせ《本などを見ながら》、読み語り《心
に頭の中に思い浮かばせながら》 などが最近 多くな
りました。野津原地区でも 10年程前から取り組んで
います。

現在社会からの話題、古い歴史や民話から アレンジの
童話 実際にあった体験から 創作した話など 近代向
けに構成したものなど。

小学校のボランティア活動で これらを使う時 故郷の
歴史、民話に興味注がれて 故郷を愛する 優しい心
の構築も出来たようにも 思われます。

一般的な『読み聞かせ』『読み語り』と 異なるのは
内容に聞きやすい 方言が入っている事。先人の生活用
語だった 方言は優しく親しみがあり つい笑顔もこぼ
れますのは それだけ 優しく思いやりのある 素直さ
を持っているのだと 信じています。



村ん辻、お宮、お寺かる 子供ん賑やけえ声が聞こゆる。遊び場でんあり 勉強ん場でんある。そしち喧嘩したりするそげな 時間の経過ん中じ育ち 成長する子供。手近かん物じすぐ 遊び道具にしちしまう。小刀 ヒモ 何でん生活い 溶けこむ 道具に早変わりするんも 皆んなが楽しゅ 遊ぶ場所 友達がおるからじゃろう。

田植えが始まる 苗代ん害虫駆除ん頃にゃ 学校も昼まじゅヨコイにしち 虫捕りゅする粋な計らい。田植えん一番忙しい『大植え』ん日にゃ 『よこうち加勢しよ』ち 先生が言うと『自分も役立つ』 そげな自信も身にち一ちくる。祭りん日にゃ『落ち着かんごたるのゅ 早ゅ帰ってんいいど』 そりゅう待つちよるごつ カバンぬ小脇抱えち つーじ帰る。

春ん遠足にゃ遠い所かる通う 子供たちん家ん家庭訪問も兼ねちする。帰り道じゃもうワラビも 獲ちち帰る女ん子。子供ながら母性本能が頭ゅ もちあげるんも自然がそげ一さするんか。自分じ考えち自然の中じ 知恵がつく環境じゃき不自由があってん 幸せん日々かん知れん。

◎ 約束守った お兄ちゃん ◎

学校帰りん君ちゃんが 顔見知りん おばさんにきれいな花を貰いました。畑に育てちおった花 通りがかりじ見つめちよつたきいか 欲しいと思ったんか知れん 『きれいじゃろう 少しあぎょう』ち くれたんです。花ん香りがただようち 気持ちがルンルン気分になりました。

道角まじ帰った時じゃつた。顔見知りん お兄ちゃんが花を見ると急に 尋ねるんです 『この辺に花屋さんがあったかな』 君ちゃんは 花屋さんはこの町にはないので 『花屋さんはないけど』と 気の毒そうに返事しました。『そう あまり美しい花を持ちよつたき ご免な 友達ん見舞いに行くもんじゃき……』 君ちゃんはすぐこの人はきっと 花を持って行きたかったんじゃろうち 思いました。

その お兄ちゃんの横顔を見ちよつたが 『これあげましょう』『えっ』 お兄ちゃんは びっくりしたように君ちゃんを見ると 『折角貰って帰るところじゃろう いいよ』 と遠慮しました。でも少しさみしそうな 顔でじっと見るのは 可愛いそうにもなりました。『いいんで私もそこじ おばさんに貰ったき』 明るくニッコリ顔じそう言うと お兄ちゃんに さいで一たんです。

『そう 本当がいいん じゃ頂いち そうそうお名前を教えて』『いいよ そんな』『でも帰りに お礼に行きまずから』 君ちゃんは困ったようでしたが 『すぐその家 君ちゃんて言うの』 『君ちゃん いい名前 やさしいな』 じゃあ遠慮なく 頂いて友達に持って行きます きっと喜ぶじゃろう ありがとうな』

お兄ちゃんは 嬉しそうに抱き抱えると 病院の方に行きました。君ちゃんは家に帰ると こんこつう話しました。『あらら そげな いいこつーしたん 喜んだじゃろうな』 『嬉しそうじゃつたで』 人ん優しさは 嬉しいもの ましてや自分が見舞いに 花を持って行きたかったそん 思いが通じたのが 特別に嬉しかったごたる。君ちゃんも又 いい事をしたち 楽しく嬉しい気持ちになった。

もう日暮れ頃になった時じゃった。『君ちゃんいますか』
『はい』 お母さんが玄関にてたら 若いお兄ちゃんが出来
立ってました。『君ちゃんのお母さんですか 今日お花を
頂いた 山本と言います 君ちゃんは』『今遊びに行ってい
ますが すぐ帰りますから』

お母さんは 山本さんに待ってもらおうと 呼びに
行きました。『お兄ちゃん やっぱ来てくれたん』 走りな
がら話す声が聞こえました。やんがち帰った 玄関先 『君
ちゃんお帰りなさい 今日本当にありがとうございました
お花をととても喜んでくれたよ』『そう よかった』君ちゃ
んも 息弾ませち 自分の事んこぜつ嬉しゅうなりました。

『本当によかった 感謝んグラジオラスの球根 お礼に差
しあげます』『これ私に こんなに』『可愛い花が咲くから
育ててね』『お母さんこんなに』 お母さんの顔見て
聞きました。『折角ですから 頂いたら』『ありがとうお兄
ちゃん』『優しい君ちゃんに 植えてもらおうと きっと喜
ぶでしょうよ』『嬉しい』 君ちゃんは小躍りして 喜びま
した。

次の日のこと 昨日お花をくれた畑の おばさんの家に帰
りに寄ると 庭先じ大根洗いをしよる。声をかけると吃驚
振り向いたので 『おばさん 昨日のお礼にこれ あげます
』 紙包みかるグラジオラスん球根を 差し出しち頭を ピ
ョコンと下げ 花をお兄ちゃんにあげた事 見舞いに持って
行き喜ばれた事 お礼に球根を貰った事。など話しました。

おばさんも自分の事のように 喜んでくれて大根洗いの
苦勞する仕事も忘れてしまうごたる 嬉しい時間になっちし
もったようじゃった。『君ちゃんがん優しさが通じたんで』

でん元はと言ゃ君ちゃんがん 気持ちが優しいかるん事で
回り回っち 私にまじん『ご褒美ん球根』 今日は何と良い
日じゃろうか。二人は顔見合わせてニッコリ笑顔になっち
よつた。人間はいつも誰かに助けられ 世話になっち生きち
よるもん。じゃき出来るこた一する それが自分も助けられ
支えらるる事にもつながるもん。

『よかったなぁ』 おばさんの声は涙ぐんじよつた。君ち
やんも釣りこまるるごつ 涙声になったんが解った。夕焼け
雲が赤く染まっち 明日も天気か夕日が美しい。まるで二人
ん心ん中んごたる。

★ 方言説明

45 P そげな…そんな。おるからじゃろう…居るから
でしょう。ヨコイ…休み。よこうち…休んで。
ち一ちくる…ついて来る。つーじ…飛んで、
走って。

46 P もんじゃき…ものですから。さいで一た…差
しだした。あらら…まあまあ、急に、吃驚。
そげな…そんな。じゃつたで…でしたよ。待
ちもらうごつ…待ってもらってください。

47 P ごたる…ようです。

48 P まじん…までも。

◎◎◎ 鬼の目にも涙 ◎◎◎

木陰をよけちワラビ取りしよつた 良ちゃんが崖べらう
回った時じゃつた。何か泣き声が聞こゆるような そげな
気がしちならんき 腰う伸べーちあたりゅ見回した。けん
どほかに人んおるようでんねえ。良ちゃんな毎年来るき

よく取る場所は知っちゃう。こそっと一人じここに回っちゃうたんじゃった。知らんしたちゃコンメンガー一杯ある所じ取るき良ちゃんが こきーおるな気がつかん。又腰うかがめちワラビゅ取ろうち したそん時じゃった。小石がコロコロ転がっち 草原う落ちち行く。そりゅ目じ追いながら見つめちよつたら そん時いまた あん泣き声が聞こえちきた。

じっと石ん落てた下ん方を見つむると たまがっちしもうた。石が落てち行く方に 誰かがおるごたる。じっと見据えたら動く『もしや誰かが』 良ちゃんなじっとそん動くぬ見ちタマガッチしもうた。そこにゃ可愛い着物う着た娘がおるごたる。良ちゃんなワラビ取りうやめち 恐るおそる草原お下に下りち行きました。

泣きながらじっとしちやる 『もしかしたら怪我でんしちやるんか』 足もとに気をつけち えーと側まじ来たら そん娘も気がちーたんか 又大けな声じ泣きでーた。そりゃーきっと助かるち思うたかるか そげな心が子供ながら回ったんかん知れん。

優しい声じ『大丈夫じゃき どうしたんな』 『……』泣き声はやんだんじ ほっとする。きっと安心したんか こんままじゃ死んでしまうち 思うたんか『もう大丈夫』笑顔があつたき えーと落ち着いたんじゃろう。側に行く と小刻みに震えちやるが チッタ落ち着いたごたる。

側に寄っちゆう見ると あんまり見たことんねえ娘じ気になっち頭かる足先まじ 見ると足にチット怪我しちやる。そん怪我じ血か滲み出ちやる。『こくう怪我したんかな』 良ちゃんな手さげかる リバテープを出すと足にペタリ張りつけた。

じっと見ちよつた娘もえーと安心したごたる。良ちゃんもほっと安心。じゃがなしこげな娘が。あたりゅ見回したけんど誰も おらん。『一人じ来たん』『……』『どこかる来たん』と娘は天を指さしち 頭をさげた。『まさか天かる』ひょいとすりゃ頭打つたんか。いろいろ考えたが『そげんこたぁ考えまい 可愛いそうじゃき』良ちゃんは自分に言い聞かせち あたりゅ見回したが誰も。

良ちゃんはいつも誰も知らん所じ コソツト取っちよるき そう思うとおかしゅうなっち クスクス笑い出しました。そりー釣りこまるるごつ 娘も笑いだしたもんじゃき良ちゃんも ホットしました。きっと誰かと来ち待つちよつたんじゃろう。

いろいろ考えたがとにかく こん娘が落ち着くまじ待つちやるこちーしました。そんな時じゃつた 急に空が曇ったち思うたら風がサッと そしち空かる何か目の前い現れたき タマガッチシモウタ。あんまり急じゃき 良ちゃんも覚えちよらんが確かに 何か大けなもんが……とそんな娘うかかえあぐるとスート 空に舞い上がっちしもった。

娘は目に一杯涙をためち 『ありがとう ありがとう』そんな声がだんだん 小そくなっち聞こえんごつなっちしもった。ひょいと気がちーた良ちゃん ワラビを取っちよつた元ん場所に チョコント立っちよつた。目の前にゃ涙をうかべた あん娘ん顔がいつまでん残っちよつた。

鬼の子供か それとん雷さんの子供か 良ちゃんは解らんままじゃが 助けてやったそれだけは 確かじゃつたぬ思うと『よかった怪我が早くよくなるといいが』ち いつまでん空を見つめちよつた。

良ちゃんは家じ こん話しをしたところ 『鬼ん子でん
雷ん子でん助けちゃつたな いいことじゃ』 お父さんが
ほめち ニッコリ笑いました。

次ん日の朝じゃつた。早起
きした お母さんが軒下を見ると 大きな箱が3つあった
もんじゃき 慌てち お父さんを大声じ呼びよる。そん声
にタマガッチ起きた良ちゃん そん箱にゃなんと みかん
、りんご、バナナ、が入っよるもんじゃき 『こりゃあ
昨日助けた鬼か雷さんが お礼にくれたんかん知れん』ち
言いました。

良ちゃんは『いい事しちよかった』 喜びながら それ
でん『怪我ゆうなつたじゃろうか』ち ちっと心配にもな
りました。そん時じゃつた。朝んお勤めに回ってくる 寺
のお坊さんのリンの響き 『お坊さんに聞いちゃどげえ』
お母さんの言うのに 合わせち お父さんが 『そっじゃ
のう』 返事すると すぐ こんこつう聞きました。

お坊さんなじっと目を閉じちよつたが やおら開けた目
かる滲む涙。『誰か 昨日何か人を助けたこたあなかつた
』 良ちゃんはタマガッチしもうた。お父さんが昨日ん話
しゅしたら 『よかつたのう とてん喜んで お礼に持つ
て来たらしいよ』 皆は『よかつた』ち 喜びました。

それから良ちゃんも 早うゆうなつち又あいたいもん
じゃなあ』ち 一人言言いよつた。そりゅう聞いた お母
さんが 『ゆうべ雷さんの子供ん夢みたで』 ち言うもん
じゃき 『どげしよつた 見せて』 良ちゃんのオネダリ
に みんな大声じ笑いました。



野津原ん南ん方に浅内ち言う所がある。そこに長者がおち 近所ん山んモリかる いのちきまじ 全てを取りしきりよった。情けを請う人じゃ 戸をあけ 仕事に困るよるしにゃ そん助けもシチャリよった。じゃき皆んなかるも 大事にされ何事かん時にゃ すぐ飛んできちよった。

そげな長者も何代かしよったら 子供が授からんじ絶えそうになった。心配になっち山ん向こうかる 跡取りん養子を迎えち 後を継がするこちなった。勿論そん嫁にゃ地元じゆう育った娘を添わせち 老いん先まじ幸せに暮らしたち言う。それも今まじ人を大事にしちよつからじ そんご褒美があったこちなる。

そげな事があっち 何年か過ぎた頃に稲を植えるこちになった。広い場所があっち 水も谷窪に流れよるき 心配がのうじ野津原ん うまい米が出来たち言う。みんなが加勢しち開墾すると 時のめに6反もん田んぼが出来た。そん仕事にも雇うき近所ん人たちも 仕事があるき生活も出来た。

どげな立派な田んぼがあってん 仕事するしがオラニャ田も生かされん。そりいナンボおってん 真面目にせにゃ作物も ゆうは出来ん。それらがうまく噛み合っちこす 米もゆう出来 働く人も真剣働き 長者も喜ばれるもん。自分一人が偉いとか自分が働くからとか だけじゃ世の中うまく行かんき 心を合わせ頭を使うことで 結果も素晴らしいもんにもなった。

長者さんの優しい心と 回りにおる人たちん頑張る気持ち。物を作る喜びをみんなで分け合う 思いやりが大事じゃ。

いっときした頃ん事じゃつた。ある夏ん『田の草取り』うするこちなつた。仕事するしが多いき 出来るだけ皆んなにしちもろおう。そうすりゃ皆んなに錢もあげらるる。長者は皆んなに仕事しちもらうこちした。朝早うあつまつたしに今日も暑いごたるき早めに済んだら 『1日分あげる』と言うと家に帰った。

人数じ割った広さん田んぼに入り 頑張り始めたもんじゃき 予定より早う済むごたる。草取りすると田んぼん水が濁っちすぐにゃ 取ったか取らんか解らんごたる。真面目にすると時間がかかるが 取り残しがあっちゃ困る。腰が痛えけんどうゆう頑張っち 半分以上は済んだようじゃ。

『まゝ一服しちゃどげー』 長者さんがヒドカロウち 声をかけたらずに腰をおろしち 一服始めた。そん間に濁った水がジワット澄みで一た。所どころん株の回りん草が まだ残っちよるんがあつた。が 長者さんな知らぬふりしち 家に帰った。

昼までに早う済んだき 長者さんに『済みました』ち報告に 一人が来たき 『ご苦労じゃつたな 済んだしゃもう帰ってオヨコイ、後じ見に行きましようき』 手足う洗いながら それぞれ苦労した話が弾んじよつた。そん内い水が澄んだ田の中は 美しゅ取った田もありゃ 残りん多い田もあつたごたる。

慌てたあらまし取りした人たちゝ また田に入りセワシゅ残った分を 取り始めた。真面目に取った人たちは 長者さんに挨拶に行つたき 『この人たちは真面目に』……長者さんもすぐ解つたよう。帰りん『おみやげ』も貰って帰って行きよるごたる。

◎◎◎ 方言説明 ◎◎◎

- 49 P コンメーンガ…小さいのが。かがめち…しゃがみこむ格好。じっと…静かにして。ちーたんか…着いたのか。チッタ…少しは。こくう…ここお。
- 50 P ジャがない…しかしないので。こげな…こんな。そげんこたぁ…そんなことは。コソット…内緒に 静かに。待つちよるこち…待っていることに。そうなっち…そのようになって。
- 53 P モリ…保護する。いのちき…生活、暮らし。戸をあけ…いつでも遠慮なく入って。シチャリよった…してあげていた。きちよつた…来ていた。こち…事に。めに…仲間に。どげな…どんな。オラニャ…いなければ。そりーナンボおってん…それにいくら居ても。
- 54 P しちもらおう…して頂くことに。あげて…渡して。しちゃどげー…してはどうですか。ジワット…静かに、こそっと。オヨコイ…お休み、ゆっくりと。あらまし取る…雑に手抜きして取る。セワシュ…忙しく。

方言は初めての人には 難しいものですが 内容には優しい気持ちも込められています。続く言葉を聞くと解りやすい文章なら読み直しが出来る そのような方言は早口では乱暴にも 怖さも入りますが 真実は『生活の中から滲み出た』長年使っている 生活用語なのです。

使っていると込められた 気持ちが伝わるとその言葉のよさも 人情として伝わるとおもいます。その言葉が《方言が》出来た 作られた元にはそんな想い 心があるのです。

通学生徒がゆう挨拶しよる。そそげな中に方言が時たま飛びだしよる。おおかた3世代んしが一緒に生活しよるんじゃろうち頼もしゅうもなります。両親が博学なんか年寄りが話し上手なんか。そきい家庭ん明るさ 楽しい心ん生育も約束されるもんでしょう。

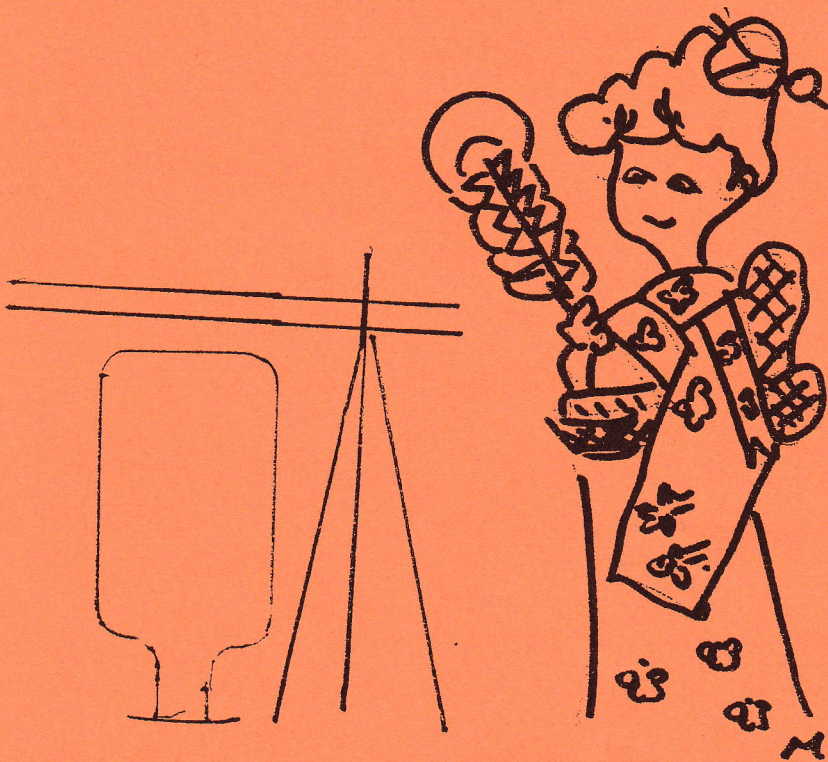
そげな子供にゃ社会勉強ん 機会も3世代ん環境じ育ち思わん 自分じ取り組む発想も閃くごたる。ほいじちよいと頭ん体操です。文字にゃ右かる見てん 左かる見てん 上かる見てん 下かる見てん なんと同じに見えち 読むんが幾つかあるけんど どうじゃろうか。幾つ解るかな。

子供ん頃かる読み 聞き 書く習慣があるしゃ わきゃねえ気軽に出来そうで。地図にある記号も入れち 10語以上解りゃもう たいしたもんじゃな。答えは65Pん『ちよいとっぷく』コーナーに あるきな。頭ん体操ふんな頑張ってな。ふんなヒント1つ ※ これもで。

時間な皆んな同じだけ 生まれた時い天かる授かっち来たけんど 時間の大事なこたゑ知っちょつてん そり秩序ん大事な事も解っちょつてん ほとんどんしは そん二つが密接な関係たゑ 自覚せんしが多い。正しい秩序は時間ぬ倍にする。そん時間の使い方を助け 活動力う倍加するからでんある。

時を失わんこと そりゃー無用な行いをしよるんかも。1日1時間ぬ無駄にすりゃ 生涯85歳としてでん 莫大な損失になるんじゃねえかな。ただじクルルしゃ誰もおらんき 働く事じ収入を得る。それこそ使いおーけんある金じゃあるめーか。早起きゑ3文の得ちゆう言うが そん心がけこそが大事な事でん ありそうじゃきな。

ふるさとの味



昭和20年代後半頃の 資料によりゃ当時ん食い物ん旬は次のようじゃった。《もう60年はず前んこちなるが》

カラシナ…3月、エンドウ…5月、ラッキョウ…7月、サトイモ…10月、白菜…12月。

カキ…1月、さざえ…3月、まて貝…5月、しじみ…8月、ほたて貝…9月。

鯛…5、6月。鱈…9、10月。ぶり…12、1月。サヨリ…2、3月。キス…8、9月。

ネーブル…5月、アンズ…6月、桃…7月、いちじく…9月、ザボン…12月。

なんでん一番美味しい時節があるごつ 人間にも力を枝を情けを 能力を体力を 示す旬もあるもん。生きち行く為にゃ源ん食い物に 精魂傾くる 女性ん姿はまさに 女神でんある。神代ん昔かる女性があっちこす 人類が今日までも 生きながらえちも来た。それにゃ口かる入る 食い物んと太陽、水、空気、人ん情愛が 周りん人たちん支えあう 環境がここまじ続いち来たかるこす。中でん食い物ゃ欠かせんもん。いよいよん時『何がほしいか』ち問うと なんち言うはじゃろうか……



故郷ん古くかる作り伝わる 大事な食べ物ん幾つかを並べち見たが 作り方なんかあんまり 気にせんじ作る時にゃ 又自然と自分流ん英知とアイデアも 加味さるるもん。

故郷ん味にゃ先人の知恵と 必要に迫られち作りで一たもんが ケックヤ味がゆうじ『こりゃいいわい』じ 通るこちなったもんが多い。けんどそりゆう又シャント 保ち続く人間の情愛も 込められちよるんじゃろう。そこに味ん真髓が仄かに 醸し出してんくるるごたる。

肥後街道ん宿場にゃ素朴じゃが 人ん心がこめられちよる 味があっち材料も手近に入る そげな取り合わせが時ん 人気にも結びついちよつた。通る人たちも地元やら肥後やら府内やら 遠い浪花、江戸、遠来ん疲れた体を心を癒す それは何はさておいち 食べ物でんあったじゃろう。のれんをくぐちち入る 何とも言えん匂い 心込められた料理が器に 盆に 手拭い姿んゆう似合う店先。

『宿場そば』

参勤交代時代ん江戸期の 今市宿場ん『十割そば』それ にゃ手打ちした つなぎなしん蕎麦が 品格う見せち通なら目に止まり 食欲もそそちくるる。手ぎわゆう纏めるんが苦じゃが 付け汁にサットつけると いっぺんに喉に運ぶ。独特な香りと喉越しん食感。もう次ん蕎麦に箸が動く。イリコダシに摺ったゴマ 青みはネギ 決まりきった品揃いが嬉しい。

小ぶりんオムスビが テショウに3つ。行儀ゆう並うじよるんが なんか心ニキイ氣くばり。人ん心うコソット『お味どげな』ち 問いかけちよるごたる。『そげんことどころじゃねえ ウメーき返事ゃあとあと』じゃろうなあいいんでユックリおあがり一笑顔じ奥にノレンを潜った。ほっと安心したんか 優しい氣くばり。

片くろに竹ん皮をしいち 沢庵漬がフタキレ黄色ん色が
まこち 鮮やかんも漬け込みに 柿ん皮ん干したの利用。
色彩が目を楽しませちくるる。手作りん茶じゃろう 霧が
多い所じゃき味が冴えちよる。こげな取り合わせにも心う
気を 使い分けちモテナス 宿場料理にゃ『客を大事に』
そげな 暖かな思いやりも感じらるる。

オムスビゃ地元じ取れた 黒米ん入ったの、しそ入りん
物、真っ白い米んもん そんな横にゃ小粒ん赤い梅干し。こ
こまじコダワル親父ん心意気。

つつる音が耳に入ったき 横向いたら こんしゃ『と
ろろ飯』と来た。やっぱ地元ん山に増えちよる『山芋』
栄養もあっちそりゃー 『ジヨー』にもなり元気モリモリ
とか。摺りおろしたに イリコだし汁じ薄めながら レン
ギが活躍する。程いいぬるやかさに 終いにゃ生醤油じ隠
味1、2滴。麦飯う大食い茶碗に軽くつぐ そりいトロリ
とかけたら できあがり 上に青しそひとひねり。

落とし汁にもこん山芋が使わるる。固めに摺った山芋お
ダシ汁に 貝杓子じ分けちゃ落とし込む。地鳥にシイタケ
ニンジン、ネギ、ゴボウ、あり合わせじ事足るるき 仕上
げにゃ ミツ葉、ゆず、これ又季節んもんなら お構いな
しん食材なんでん似合う。

宿場にゃそれなりん食材があるが 季節に使い分くる繊
細な心くばりゃ 料理ん味う一段と引き立て 余韻さえ残
すごたる時でんあろう。疲れた体に人ん情愛が こめられ
た食べ物に並ぶ時 感情は物や金にゃ変えられん 大けな
宝物んぬヨバレタゴタル 気持ちにさせられちしまう。
十割そば、とろろ汁、落とし汁、宿場らしい味と色彩。

『まめしダンゴ』がでくる 裏口かる入ったんは近所ん馬子。『いいドチョイト待てるる』『うんショワシイゴタルナァ』『お影じなァ』やり取りん話かる近所ん 顔なじみん馬子んごたる。竹田まじ朝早うでたき モドリも早かったが昼飯やヤツパ ここまじ帰っち食いたかったんか 親父が目を潤ませち 『すまんのゃいつも』心ん中じゃ礼を言いよるんじゃろう。

米ん粉んダンゴにキナ粉つけた 簡単なもんじゃがチョコット 甘みが滲みでるきウメーち 若いしも喜ぶ。汗かくもんじゃき喉が乾いち水飲む。じゃきイチベェ甘えもんが 欲しいんじゃろう。帰り道じ飴がたも売りよるに でんここまじ帰っちこん店ん 商売ん加勢うする そんな健気ん気持ちゃこんだ仕事にん つながっち持ちつ もたれつんツツロク人生双六にもなる。

米ん粉は米ん実り悪うじ砕けたぬ 粉にしたもんじソレが ダンゴになっち きな粉まぶすと結構旨え。江戸かるん旅んしも『まめしダンゴ』 今日はあるじゃろうかち 足が急ぐ。さほど美味しいもんでんねえが 素朴な田舎ん味ち言うか こん店ん親父ん味ち言うか。魅かるるしも多いき不思議な気もする。

『よい出来たで はい食べなァ』『おおきに 急かせち悪かったなァ』『いいんで』二人んやり取りう聞いちよると まるで親子んような 親しみが仄かに湧き立つごたる 楽しい雰囲気誘い込まるる。表にまた4、5人連れが入っち来た。今日は大入りじゃなァ ち言いたげな言葉を 横取りするごつ『こかァふんと いつ来てん先客万来じゃなァ』 自分の事んごつ喜ぶお客、奥ん馬子、親父ん顔 みんな嬉しそうな街道 宿場ん店先じゃつた。

★ 方言説明

58P で一たもん…だしたも。ケックシャ…結構。シャント…しっかりと。くるる…くれる。じゃが…ですが。そげな…そんな。十割そば…百パーセントで交じりなし。つなぎをして…接着材を入れて。サット…急速に。イリコダシ…煮干しでダシ取り。小ぶりん…小さな。テショウ…小塩皿。なんか…などは。心ニキイ…心にくいまでに行き届く。コソット…ごく内緒で。どげえな…どうですか。そげんことところじゃねえ…そんな事どころか。ウメーキ…美味しいから。あとあと…あとまでも、後で。じゃろうな…でしようね。おあがり…召し上がって。

59P 片くろ…片隅。しいち…敷いて。フタキレ…2切れ。柿ん皮の干したの…干し柿を作る時に剥いた皮を干して。こげな…こんな。米んモン…米のもの。ここまじ…これまで。こんしゃ…この人は。あっちそりゃ…あってそれはレンギ…すりこぎ。そりい…それに。まめ

60P し…まぶして。モドリも…帰りも。ヤッパ…やはり。チイチペー…一倍予想以上に。飴がた…飴の固めたもの。つながっち…連なって。ツツロク人生…行きつ戻りつの好誼。いいんで…いいのですよ。言いたげな…言いたいような。こかぁほんと…ここは本当に。粉米…選別して合格しない小さな粒の米を粉にしたもの。人間の一番大切な食べ物
が 使い道によって利用価値も
出来る古くからの 生活の知恵。



『田舎吸い物』

不意ん来客にゃすぐ何かち 気を使うんが食べ物でんある。それが田舎とんなりゃ尚更んこと 慌てまくっち買物しゅうにも ソコラソングニャ店屋もねえ。じゃけんど心が込められチョリャ 田舎は田舎なりんよさも 味もあるもん。若い娘は気づかんでん 年寄りがオリャ近所んしてん すぐ加勢手つどうちもくるる。

『なにえ お客え ふんな卵吸い物んでん しなァ』
もう手は今朝がた生んだ 卵う大事こうじしちやる 籠かる出シチ前たれに包むと ツウジ来ちくるる。イリコだしん湯が湧いたら 卵に季節ん野菜が青物んが 仲間入りしち出来上がり。出した茶が飲み干した頃にゃ 盆に乗せた『卵吸い物ん』が 運んじくるなんか芝居んごたる。

隣近所が●いつもユウシチョキヤ 時ん間にあうき助かるんも 『つつろく人生』。季節ん青物にゃ香りも加わるし 見た目じ食うのん格別ん味になる。ミツバ、サンショウ、ウド、ショウガ、フキ、ユズ、カボス、ニラ、ノビル、人ん気持ちちがコリィ入っち 出来上がった時そこにゃ 金銀でん買えん宝物が 顔見せちよるんじゃろう。

『りゃーするこたァ早えなァ』 隣んばあさんがすぐ『とてん手回しがイイキナァ いい娘で』 すかさんじ売りこみときた。『うちん嫁に貰いてえなァ』 お客が惚れたんか 顔色が相好くずしちシモウタ。『おしなぎーけんどなァ』 ばあさん抜け目のう欲張った。そうこうしよつたら ここん親たちも帰っち来た。客にもたまがったが隣ん ばあさんの機転に助けられた 娘も幸せ者んでんあった。昔せええなつた者んようじ よき一嬉しかったごたる。

『ありゃまゝ あん時んしじゃな』 座布団かる座り直すと 丁寧に頭うすりつけち 『あん節は本当に世話になっち ありがとうございます』 『ずっと元気じゃつたんな』 『お影様じ お礼さしあげたごつ ゆうなっち』 『そりゃよかった』

3年はず前に足う痛めち介抱しちやつた そんしが改めち挨拶い来たようじゃ。『あん時ん娘さんが 今日特別ん腕自慢ぬ』 『チャアラ 何出えたんかの』 隣んばあさんがすかさず 『これこれしかじか』 日頃ん行いがいいと思わん助っ人があるもん。

『こいさ ゆっくりスリヤイイ そうじゃ あんた甘いもんが好きじったなえ 小豆う貫うたき 甘汁炊くがいいど』 娘にコンダ『甘汁炊く』ぬ 言いで一た。『うん ウットン十八番じゃき』 娘も嬉しいんか もう小豆う洗いで一た。挨拶に来た客も甘汁ち聞きゃ 帰る気持ちがぐらりと揺れた。

『竹ん皮う入れたか』 『入れたで早う煮ゆるきじゃろ』 『覚えたのう』 『隣んばばさんも食べテナ』 『そりヨバレニャ損じゃきなえ』 みんな大声じ笑うた。『よしわしもビッチョ延ばそうかのう』 『お客さんもドゲナー一緒に延ばしち』 『ヨイナ』 『いいぐれか』 『私も好きです』

黒砂糖ん匂いが仄かに香る甘汁 みんながヨッチタカッチ炊いたけんど そりゃそれなりん味が染みこむ 田舎ん甘汁にゃ人間の真心ん味が ふんわか練り込まれちよつた。傷がゆうなっち お礼に来たに娘に 隣ん人に こん家人人たちに思わぬ ご馳走ヨバルルタァなんと 運のいい人生じゃろうか。

◇◇ 方言説明 ◇◇

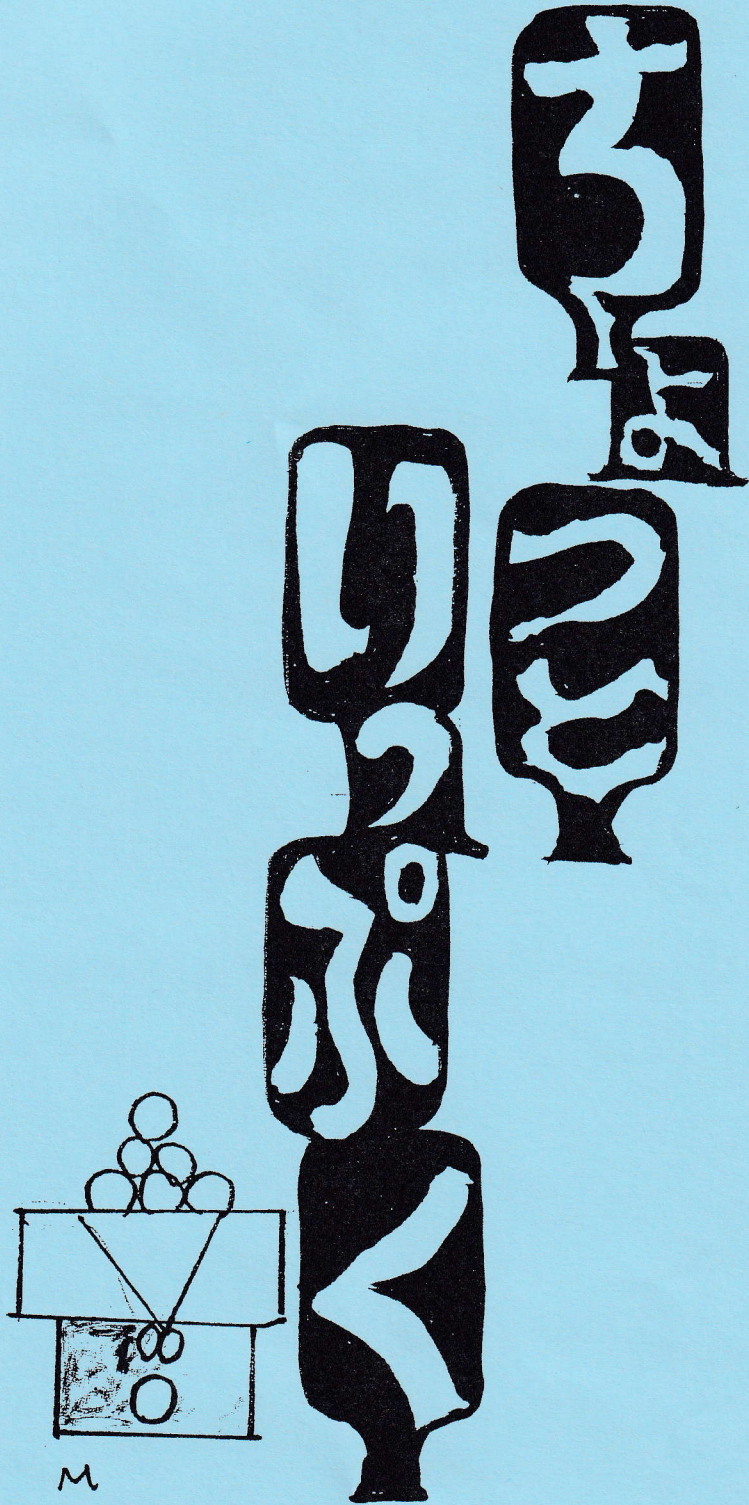
62P しゅうにも…したくても。ソコラソング…近所には。チヨリヤ…いれば。つどうちもくるる…加勢してもくれる。大事こうじ…大切に。ツウジ…飛んで。シチョキャほしておけば。コリィ…これに。リャー…吃驚。おしなぎい…惜しい事で。そうこうしよったら…そうしている間に。

63P しじゃな…人ですね。ゆうなっち…よくなって。ちゃあら…あらまあ。こいさ…今晚。甘汁…ぜんだい。ウツトン…私の。ヨバレニャ…ご馳走になる。ビッチョ…小麦粉を固めに水でこねて延ばす。ドゲー…どうです。ヨイナ…よいですか。ヨッチタカッチ…みんなで集まって。

★ 小豆を煮る時に竹の皮を入れて 煮ると早くやわくなる。黒豆を煮る時にさび釘を 入れて煮ると色よく煮える。このように煮物に合わせた 相乗効果は生活の知恵で古くから 使われ重宝がられている。物の不自由な時代でも 上手な知恵の使い方で 味を整えるのも生活を豊かにする鍵かも知れない。

★ 赤飯を配る時に ナンテンの葉を乗せる。色の調和もよく見た目にも美しい。が殺菌作用があるナンテンの葉もし腹痛を起こしたら この葉を煎じて飲んでくださいと 謝罪する心くばりとか。炊き立てだからそんな事はなくても そこまで気使う優しさが 人の心の優しさを醸し出してもいるよう。





人ん心う知りてえこつう 求めち行くところい 生きちよる証があるもん。五助さんのアイデア 英知にゃいつも感じ入るが そげな巡り合わせん ある人は幸せ人生でんあるのでは。聞いて知って それを又ほかん 人に知らせ話すのん 人生の暮らしでんあるめーか。

- ★ 桐を植えた親心
- ★ 野津原の名前の起こり
- ★ 駕籠の台、三国境
- ★ 弘法まわし
- ★ 狼煙台



馬子の五助さんの ナリワイ道中じ そげな話の出た人、場所、流れ、言い伝え、見た、聞いた、話が伝わる中じ 広がり夢とロマンも 語る《加わる、仲間いりする》時 仄かな故郷の 人たちの人情も かたっち まざっち 大きな 楽しい 物語にもなっちよる。

七瀬馬子唄から…… あん娘《こ》年頃 姉さんかぶり
いつか覚えた 馬子唄を
ハ 七瀬のせせらぎ
サラサラサラサラ ホイホイホイ。

五助さんの馬子唄は 周りん野山にコダマしち ほりゃ
もう なんとん言えん 響きが伝わち来る。



故郷んひとたち
ん気持ちを 心を代表しちよるごたる
き。旅んしがユウ『馬子唄聞かせて！
ち ムシンぬ言うと『いいで！ 引き
受くるんも まこち五助さんらしい。

梅を食べたあと舌じ種を回しち 口ん中を右に左に動かすと爽やか。そんな種を割ち食ぶると 天神様を罰を受くるち食べんごつしよった。がこん中にゃ素晴らしい栄養があるとか。こん頃にゃ見直さるるごつなつた。春早くなる寒いに香りいい花を咲かせ 目も楽しませちもくるる。

野津原一の瀬川原ん天神免にゃ 陸奥ん梅が植えられちよつたち言う。藤原系ん関係か 梅は万病ん薬としち植えられ お粥を食ぶる時あなかなかいい 取り合わせでんある。頭痛ん時にゃ果実をコメカミ貼ると 熱を取ちくるる。青梅に塩をつけち食べた 子どもん頃ん思いで。漬けちえいと色が変わつた頃い ハンドかる引き上げち食べる。日本人にゃ欠かせんもんの王様 竹ん皮に包うだオニギリに 赤を染めた梅干しん匂い。戦中なんかもゆう食べよつた『日の丸弁当』は 心ん中にちゃんと 染みちーちよる食べ物でんある。

△△△ 桐を植えた親心 △△△

娘ざかりをみするごたる 桐ん花がふくよかな香りになつち 咲いちよるが素朴で上品な こん花は優しい娘ん心をお表しちよるごたる。娘が生まれた時に植えちよくと 嫁に出す時んダンスが出来るち 昔しゃゆう植えられちよつた。2、3本植えち真っ直ぐ伸び育つたぬ ダンスに仕立つる。

伸びた先ん枝んわかされ フジ色んラッパヲ下向きしたごたる いじらしい花まるで可愛い 娘を連想させちくるる。畑ん周りい植えた桐 雨にも火にも強い。

ダンスに作ってん軽いし 第一美しいなんのそりゃもう
他ん木じゃ ちよいと追いつかんじゃろうな。上品な仕上
がりに目を細めち両親が じっと見るけどそんな心ん中じ
ゃ 涙も曇っちよるごたる。これも人間の宿命人生でん
あるんじゃろう。

育てた子供んえの愛情と 別離ん気持ちは交差すりゃ
そこにゃやがて離れち 又親になっち行く次ん宿命が 隠
されもしちよる。桐の花んふくよかな香り そこには人生
ん仄かな夢と ロマンもそっと燃え続けちよる。それが人
生なのかん知れん。

『どげーな もうダンスは出来たかえ』『うん念入りし
よるごたるき まちっと先になるごたる』『歩くまじゃ
楽しみじゃが 泣くこちもなるな』『しょうがねえな』
嬉しいごたる 寂しい娘ん歩く秋。親なりゃみなそげな
日が……。

母親がこき一來たのが30年はず前 それかる子が生まれ
れ這え 歩けち言いよったんが 口喧嘩もしよったんが
もう一人前にゃ程遠いが 嫁になるんとち自分に言い聞か
する。『しよわああるめな』 不安もあるけど 相手があ
りゃあこれもめぐり合い。

桐ん木がダンスに取れたんも ありがてえ事じゃ。いつ
までん切らんじ立ちつくすのん 心配じゃつたけど な
まかた役に立ったんも 嬉しいような複雑ん心境ん親父。
『これじ一人荷がおるる』『寂しかろう』『せいせするわ
い』『そげんこつ言うてんいいな』『……』

桐ん花が風
に吹かれちそんな匂いが サート流れち来る ふくよかな匂
い娘んように。

★ 物の呼び方 鏡…1面。蚊帳…1張。菓子…1折。
箆筒…1竿。鯉節…1連。御輿…1基。

★ 旧の九州名 筑前 筑後〈現在の福岡〉 豊前〈福
岡、大分〉 豊後〈大分〉 肥前〈佐
賀、長崎〉 肥後〈熊本〉 日向〈宮
崎〉 薩摩 大隅〈鹿児島〉

◇ 野津原の名前の起源

天暦9年〈600〉1村1社ん勸請ん時に 野津原三郎が
一の瀬川原に『天満社』を建てた。そん家名をもち村を
野津原ち言うごつなつた。

豊後国誌じゃ大分郡ぬ 9つん
郷にわけち野津原も 植田郷に入った。奈良時代に入ち
聖武天皇15年〈710〉 国司が豊後に任命されち以来
34代藤原秀光までん480年間 王朝時代に野津原も
育まれちよつた。

鎌倉時代ん建久7年〈1197〉 大友能友ん入国かる慶
長5年まじ 400年あまり治められち 義鎮ん頃んゃ府
内ん小京都とん言われち 全盛ん頃でんあつた。

そん後ん慶長6年〈1601〉に 肥後領地になち加藤
清正や 細川領になり明治を迎ゆるこちいなる。明治4年
〈1871〉廃藩令じ野津原村になつた。そん後こんだ
明治40年〈1907〉にゃ 諏訪村と合併そり昭和22
年にゃ 大野郡の一部ん沢田も合併。また昭和30年にゃ
今市と合併しち 大けな野津原村になり34年にゃ町政を
施行しち 野津原町になつた。

※ 方言説明

- 66 P 食ぶると…食べると。ごつしよった…ようにしていた。くるる…いただく、もらう。えーと…やっど。ハンド…壺。なんかも…などにも。出す時ん…嫁に行く時の。ゆう…よく。
- 67 P なんのそりゃもう…とてもとてもそれは。ちよいと…何と言っても、少しの。どげーな…どうですか。うん…はい。まちっと…も少し。歩く…結婚して嫁に行く。泣くこちも…寂しさは隠しきれないよう。しよわぁねえなぁ…仕方のないこと。そげな…そんな。しよわあるめえ…世話はないでしょう、心配はないでしょう。そげんこつ言うてん…そんなことを言っても。
- 68 P 9つん郷…笠和など大分市の西半分や 由布市阿南などの地域9つん郷。

★ 籠の台…栗灰かる今畑まじ下ると 遠方は山に隠れち見えんごつなるが 今畑に下るあたりゃ府内ん海も見えち『早霧峠』ち 言いよったがゆう解る。今畑かる下がると『三国境』 大昔しゃ3つん国が境うちよつたんか 頷くるなぁやっぱ幕末じゃろう。

諏訪村、野津原村。谷村がここじ境うちよるき たぶんそげえ呼ぶごつなっち思う。峠ん店もあつたき『茶店』 赤え『お休み処』ち ちっとおかしい筆字がゆう似合うもんじ 娘ならん年寄りんしが 素朴な盆に渋茶を運んじくる。腰にさげた手拭いが又ゆう似合い 絵になるごたる。谷村かるん北風に諏訪ん上げ風 ふんともう何とんコンコロモチがいい。

『上りゃ栗灰 下れば瀬口 中は今畑春かすみ』 五助
さんがん馬子歌が聞こえち来た。栗灰かる野之台まじ行く
んと おだてち唄わしゅうえ…茶もよばれたき 喉も涼し
ゅうなったじゃろう。馬もやっぱ自分かち近うなりゃ 元
気も出ち足取りがゆうなった。

『昨日屋形木 明日籠の台 タンス長持ち祝い唄』
『竹か梅かち 辻田に聞けば ほかに木はない 待つ《
松》ばかり』

籠の台ちついたんも 参勤交代ん殿様行列がここじ 籠
をおいち休憩したのじ つけたんと。多分今市じ一夜を過
ごした 岡領ん殿様が途中ん都合じ ここを通るこたあゆ
うあったごたる。谷に出ち挟間かる東別府い 錢亀峠越し
ん道中じゃき時にゃ ほか回りしち気分ぬ癒す。長ん道中
ん事お供もおおごとじゃつたじゃろう。

五助さんな途中かる『ふんな気をつけちな』 籠ん台か
る里福宗にくだち来た。じゃつて馬がもう先ずり行くき
気がち一たらやっぱ間違いねえ 道う歩きよるゆうした
もんじゃ。ここじゃ盆に『弘法まわし』ん お祭りがある
。御輿に仏様を乗せる祭り 百姓が多い処じ水がヒモジイ
年か多かった。そんな願ひもあつたんじゃろう。

じゃけん弘法大師んご加護じ 水に恵まるるこつなっ
ち 盆に祭りうしちん感謝ん恩返し。ある年んことシケが
ひずうじ相談した挙句 祭りを中止した。ところが秋にな
ちちオオシケ 虫も湧いち米がドシコも 取れんじやつた
ち言う。こりゃ大事祈願せにゃち 祝詞あげたら弘法祭う
せんじやつたんが どうやら元起こしんごたる。それから
はどけんことあつてん 祭りはしちよるき今でんウメエ米
が ゆう出来よるち言う。

三国境……こかゝ谷村、諏訪村、そりい野津原村ん境じ
ゃつたき皆んなが こげ一つけたんじゃろう。
昔かる幹線道としち使われ 豊後文化だけじゃねえ 西
部九州ん文化も通過したんじゃ。江戸期にゃこころあたり
ゃ 肥後領地になったけんど 多くんひとたちがここじ休
み 出合い話しゅする時珍しい事 始めち知った面白い話
口水ん垂るるごたる事も あったんじゃろう。

東北に下りゃ挟間に抜け 南に下がりゃ諏訪に出る。西
に上ると今畑かる栗灰 直入庄内 今市長湯竹田 どこま
じん道は続いちよるき そん道端ん話がここまでん 入っ
ち時にゃ大けん大話にんなる。それが峠じあり境ん いい
処かんしれんなあ。気持ちもふんわかになるじゃろう。

北に見ゆる由布山 鶴見 夏ん涼しい風あ格別んご馳走
になる。南に中九州ん連山を眺めち 花咲き鳥歌う頃にゃ
心う目お楽しませちもくるる。人情がこまやかじ 周りん
人たちにまじそれが染みちよるき それが土地柄かん知れ
んけんど 人をそげん風に育てたんかんな。

『弘法回しに想いの謎が 解けて嬉しや里の月』

『でーぶん下ったきコンダ上り坂ど しょわねえか』
五助さんがん優しい気くぼり 『へいちゃらで』 馬もそ
げな返事したことじゃろう。サッサ サッサ歩いち岩下ま
じ来た。『一里ムクの木 岩下まじゃあ 馬も苦にせん石
だたみ』 涼しい木陰ういつも作ちくるる ムクん木が
『来たか』ち 迎えちくれた。石だたみん磨けた道にゃ
今日も人が通ったような 足跡がいくつもつちよる。

西日
がちった眩しいけんど 荷物たあもうすぐ降ろすこちなる

。

□□□ 野之台のろし台 □□□

参勤交代が制度化されち 連絡手段としち作られたんが
こん『のろし台』。高台にあっち直線約5里あまりん処
鶴崎があるんが地の利を生かし 久住は山ん遮りがチツタ
あってん 煙りでん音でん解りやすい。波多野庄屋が責任
ぬ司る『物見役と狼煙役』う 兼ねた役所集落う形成しち
よつた。

福宗神社や善称寺なんかを中心に 約20戸が立ち並び
役宅にゃ 生け垣を回した奥座敷つき。表玄関かる入るな
役人などに限られ 地元んしたちが用事の際にゃ 伺いを
立てち許しを請うこちなつちよつた。百姓なんかが伺う時
にゃ 石張りした入り口かるは 裸足になつち入ったち言
う。竈ん外にゃ井戸もあっち小高え山ん 地下水がこま
じ流るる盤があつたんか たいしたもんじゃつた。

こん他にゃ地域に大けなイノコも 3つあっち生活用水
に使い役人以外の人たちや こま使いんしんなんかが そこ
に住まいしちよつたち言う。役宅かる約1丁はず南に合図
する 狼煙穴があっち灰トグン 雨にも心配ねえごつ屋根
んごつ 堀くうじよつたし東向きじ西や 北風も受けられ
ち格好ん場所じゃつた。

狼煙はこん場所かるあげち 鶴崎、久住に合図したち言
う。又筒じ知らせたち言うのは 後に高台かる天空に向け
ち 打ったようじここは役宅かる程近うじ 役宅横かる広
場《馬つなぎ場》を 横切っちすぐん場所にある。眺望ん
いいのと水があるんが 恵まれた施設でんあつたんじゃろ
う。つるべ井戸ん水ときちゃ誠 冷とうじウメーノナンノ
もう天下逸品じゃつたごたる。

『荷が済んだら一服せんな』 顔なじみんしが五助さんに声うかけた。『いつも済まんなあ』 気軽な 付き合いにお互いが支え合う事もある。馬を小屋ん側え繫ぐと腰かけた。あたあ船平かるすぐイニツク 今日ほわりかた楽な仕事じ馬も あんまりダランじゃつたる。やっぱ馬ん事が気になり苦にもなる。

『狼煙上がりゃお船が入る あれが鶴崎 京の道』

『馬子じゃ嫌かと帰りん言葉 待ちゃ背向けち

首うふる』

高うはねえが石積ゃ肥後方式じ 美しゅ並ろうだ屋敷が こんめえ箱庭んごたる野之台。山ん傍らにゃ墓地もあっち先人が眠る。大けなイノコン水あ盤ぬ通っち どこから来るんか生活にゃ困らんぐれ 美しい水が溜まच्चよる。水くみする娘たちん顔がそん 水に写ると前髪う撫でち見るんも乙女心。

西ん久住直入 北に萩の鼻狭間別府 南ん伊塚 東は野津原府内鶴崎ち 道が四方に連なच्चよる 高台ん野之台別天地にゃやんがち お国入りん殿様ん船が鶴崎に入る 狼煙んシコウする事じゃろう。みんなソワソワと何か弾むのん 夢とロマンがあるきじゃろう。

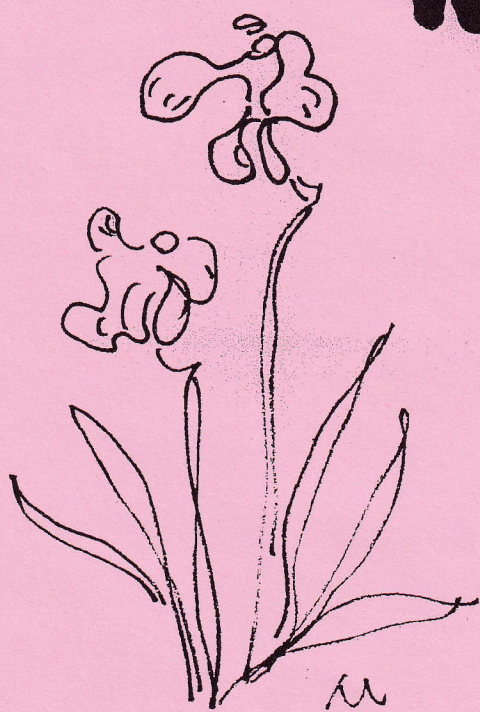
カンカラん葉に上手に座った 酒餅が盆に乗っち来たごたる 『まあ一つどげえ 食べにゃ持っち帰りよ』 もう別に包んだ風呂敷にゃ 家んしにん土産んごたる。真心が行き来するツツロク人生 じゃき人間は生きちよらるるんじゃろう。苦勞分かちあい助け合うちこす 心も気持ちも何ものうでん 豊かにもなるもんじゃ。『こりゃウメー今日な特別』 『お上手』 二人は大笑い。

- 69P 年寄りんしが…年寄りばかりが。上げ風…吹き上げる風。コンコロモチ…とても心地好い気持ち。
- 70P 五助さんがん…五助さんの物。おだてち…上手に言
って。よばれち…お接待受けて。ついち…つけた。
ほか回り…別の場所を回り。おおごと残った…沢山
残る。ふんな…それなら。しゃつて…無理にでも。
水がヒモジイ…水不足。じゃけんど…そうですが。
ドシコモ…どれほども。どげんこつあってん…どの
ような事があっても。ウメー…おいしい。
- 71P こげー…このように。だけしゃねえ…それ以外にも
。口水ん…欲望カキタテルような。続いちよるき…
続いていますから。大話に…色気交じりの話題に。
ご馳走に…予想以上のもてなしに。人をそげんふう
に育てた…土地柄と人柄が相乗効果で。コンダ…次
の機会に。磨けた道にゃ…人の情愛がこめられた道
には。
- 72P 狼煙台…狼煙をあげて連絡する。こちなつちよつた
…事になっていた。なんかが…なにかが。井戸…掘
りさげて水を貯める場所。流るる盤…地下水が通る
道。たしたもん…素晴らしく立派なもの。イノコ…
自然に一定量が溜まる水ため。こま使い…下働き。
灰トグ…火山灰土層。筒じ…簡素な大砲。つるべ井
戸…跳ねる力利用の水くみ井戸。ウメーノナンカ…
誠においしくて。
- 73P あたゝ…後は。イニツク…帰りつく。首う振る…嫌
じゃない。やんがち…やがて。シュウ…しよう。カ
ンカラ…サンキライの葉。どげえ…どうです。ツツ
ロク人生…行き来する助け支える人生哲学。

※ 上下左右も同じ読み…〇X口田囲井回米卍※十井◎
〇X口田囲井回米卍※十井◎…上下左右も同じ読み

五助 街道 物品

2



五助の馬子唄…街道No.2『矢の原あたり』

つづら折れん上り坂おえーと上ると で一らに出た。ここ
かる又石だたみがある。矢の原ん上《カミ》町ち呼ぶ。始め
んくちにゃコキイ『お陣屋』う 作る予定じゃった。じゃが
こかぁ高台じ水ん便利が悪い いのちき水おで一ぶ離れた
掘割やら中城《ナカジョウ》やら 小岩戸かる 担げあぐる
き水くみがオオゴト。

火にゃ特別気を使うき子供でん そかぁゆうしたもん火番
んぬ めえ晩しよったきそん習慣が ずうと続いちよった。
すぐ側えある秋葉山にゃ 秋葉明神も奉られち 火事にゃ心
くばりゅゆうしよった。『火元お3代頭上がん』ち 言うぐ
れ恥じでんあり責任もあつた。

お陣屋お作る予定ぐれじゃき 石だたみが美しゅしちやつ
ち あっちこっちにゃ屋号んち一た 家が並うじよつたき
こんめえ宿場町ぐれああつた。そん頃南側え細道もあっち
こっちゅ下町《シモマチ》ち呼ぶ。明治になっちこっちん方
が 往還になつたき上町ゃそん姿う 長う残しちよる。

諏訪郷ん玄関口でんあつたき 道お諏訪はじめ大野やら
府内やら竹田やら 五助さんも忙しゅ馬お引いち そりゃも
うハリコミよつた。

●三筋煙りが止まりゃ明日は 炭うオセ
出す沢田谷● 見事な唄声が聞かるりゃ『五助さんが通りよ
るど』ち 飛びでち来るしもあつた。四辻ん六地藏に頭さげ
ち 東岸寺ん下お過ぐりゃ石だたみもノウナル。土取まじ行
ってちよいとヨコオウカ。馬が頭うイサブッチ喜ぶ。ひよい
と下を見たら水担げんしが 運びあげよる坂道にゃ原村に
出る橋がある『小岩戸橋』じ孫迎えかババサン待つちよる。

土取りん中を通りよると 『まゝ茶を飲みよ』気安う声がかかると そかゝ人間ちよいと甘えとうもなる。『忙しいんじゃねえんな』 言うよるそばかるもう 柿の木に馬う繫ぐと縁先腰かけた。若いしがダノモン桶う 抱えち馬ん鼻先いおくともう馬も心得たもん。

『今日はどこまじ行くかえ』

お茶を持ちきた ばあさんが手拭いを半分おし上げち 愛想ゆう手盆じサイデータ。『すまんえ 温見まじ塩う運びよるんで』『あっこん娘はもう 嫁ごに行ったふうなえ』『こん前まゝおったで』『いんげ こないだな瀬戸ん地蔵さんに 参りよったきな』『ふんとえ 年頃じゃきなあ』

二人ゃ顔見合わせち人んことでん嬉しそう。そん瀬戸ん地蔵さんにちょこっと頭うさげち 黒都甲に上がっち来た。地蔵さんの体お削っち 好きな人にカクルト願いが叶うち言うきいか いつも削ったんじゃろう 新しい削り跡がある。乙女心んいじらしい願いが ここにも素朴に残されちよる。

●瀬戸ん地蔵に何願いかけた あん娘秋にやアルクニナ●
切ない胸の内で行くのが 決まると嬉しさと不安がよぎるもん。ゆうここじゃ晩に砂まきが出るち 言いよったが火山灰が多いき 風に吹かれち崩ずるんが落てち それを砂を撒いたごつ聞こえたんじゃろう。

『鶴山は晴れちよるど』 天気が気になるけんど 西ん鶴山が晴れちよりゃショワネエ。雨が降らんじ水がヒモジュウじ 表ん白山権現じ『雨乞い』したが 集まったしどうが 燃え盛る煙りと火に唱ゆる般若心経。やんがちしち紫色ん煙りが そこらじゅうに広がると不思議なもん 天に通じるんか鶴山に雲が広がっち やんがち小粒ん雨が落ちてくる。げにも不思議な御利益か 天祐神助か人の気心は通ずるもん。

右手下は諏訪郷の中心部太田 摩崖仏ん鑿の跡が幾つもあ
ちち 中でん『火伏地藏』は 素晴らしい。長い年月にかけ
ち追加彫りされちよるが 大火の厄よけに奉った事じ あと
火事に見舞われんごつなつた。こん他石に墨書した『板碑』
もある。地福寺は久住山系の末端にあるち 言われこの地は
阿蘇山系 久住山系 鶴見山系が交わつた場所 とん言われ
ち戦国時代栄えた 『繁美城』跡ん雄姿もとどめちよる。

肥後領地になつた時調査したら 見事に遺跡ち取り除かれ
ちよつたに 驚嘆したち言う戦国武将らしさが 垣間見られ
る思いがしよる。そげえ言ゃ下部んあちちこちちに そげな
思いん残る碑や墓石 因縁もあるごたる証が見らるる。激戦
もあつたかん知れんし 豪華絢爛時代かる変貌した 歴史ん
映り代わり悲しくも忘れ難い 過去ん花が夢がここには 今
も仄かに残されちよるんが忍ばるる。

山の中に隠し田があり ドンドン音もする空間もある。頂
きにゃ基石んごたる跡 ここにゃ何か優雅な夢かロマンか。
移り行く歴史は記述はねんけんど 想像するだけん何かがあ
つたなァ 読み取るごたる場所でんある。諏訪郷ん中心地
でんあつたき 上品な地名 小船、鑄物師釜、瀬口、土取、
坊ヶ辻、前田、どま当時ん生き方ん様子が 写し出さるる。

坂口石だたみん登り口ん地名が『石畳』ち呼ぶ。響きんい
い呼び名 小粋な名前は誰がつけたんか さすがん五助さん
も知らんじやつた。両方が切り落とされたごたる ここにゃ
水車がクルクル回ちよる。嫁に行くごつなつた娘が 物つ
きに来て水車ん音を聞くや聞かずや あれこれ思いあぐねち
よる。水車が動いたんび揺れち そこに広がつた蜘蛛んエバ
ん なんと美しい事か。人間模様んごたる白い糸に 粉がから
まりち一た模様が 宿命ん将来を暗示さするごたる。

★ 方言説明⇒75P でーら…平らな道。コキイ…ここに。
ちーた…着いた。こんめえ…小さい。
明治…西暦1868年⇒1911年まで。往還…広い道
で現在の国道などを言う。ハリコミ…頑張り働く事。オ
セ出す…背負わせて運ぶ。ノウナル…なくなる。ヨコオ
ウカ…休みましょうか 休憩する。イサブッチ…揺らし
て、ゆり動かす。

76P ダノモン桶…牛馬に餌をあげる時に使う餌桶。
半分おしあげち…半分くらい手であげて礼儀と
して かぶり物を取った動作の略式姿。手盆…
お盆の代わりに手で。サイデータ…差し出した
。いんげ…話のはじめに前の事を少し説明する
話法。カクルト…かけると。アルクニャ…嫁ぐ
のに。ショワネエ…大丈夫、心配ない。ヒモジ
ュージ…ほしくてほしくて。雨乞い…雨を降ら
せてもらう神頼み。やんがちしち…しばらくす
ると。げにも…まことに不思議な現象。

77P 下地んあっちこっちに…城山の下のほうのあち
らこちらに。物つき…精米や粉すりなど加工。
エバ…蜘蛛の巣、蜘蛛の張った網。

◇ 朝草切り物語り《赤岩の場》

夏ん朝草切りは若いしん行事 前ん晩どけ一遅うまじ起け
ちよつてん 朝間ん仕事は欠かせん大けな役目。そりい若
し同志が集まっち行くき 楽しい事であつた。『やんな
目が赤えど遅うまじ 起けちよつたんか』『そうとん仕事
んきりがつかんじ』『はりこむのう』『そげんこたあ』

そげーしよるなかめ草切り場にちいた。朝露に濡れた下半身が 歩いち来た滲む汗に いい按配ん気持ちなる状態。牛も道草う引きむしっち食い食い 本当はちったヨダキインか知れん朝。じゃけんど元はと言ゃ自分が食うぶん ふんな腹もたたんソリャマァソウジャ。

『怪我うせんごつしよや』 年長が決まり文句じ注意すんのん やっぱ皆んながん気持ちちが 解けおうちよるきじゃろう。仲んいい二人連れどまもう 目くぼりしちチット離れた所い入っち行きよった。めいめいが切り集めち荷にすりゃ 帰りん時間になるんじゃが 時にゃなかなか出来んしもおる。そこゝ皆んなじ加勢しち作るこちなるが 仲良しゅ終いまじ出ちこんが そかゝそれじ気を利かせち 咳払いひとしきり。

濡れたノコギンの脇かる 膨ろうだんがチラリ見えた。見せたんが本当かん知れん。横目じみると何か言いながら 側に寄っちくるとじわっと抱きしめた。『誰かくりゃせん』『しよわねえ 気を利かせちくれちよるき』 友達たゝいいもんじ今朝も 二人きりん時間が楽しゅ流れちよる。

『もう皆んな出来たかイヌルド』『いいど』 わざつと大けな声じオラブな あん二人に聞こゆるごつん心くぼり。若いにしちやいいところがある。『出来たど』 奥かる返事が反ちきたき 皆んなも本当んところゝ安心でんあつた。夜明けかる時間がたつと朝露もじわっと 溶け始めち見回わしゅビシヨ濡れ。ゆう頑張った朝間仕事ん証でんある。

『やんがんな品が悪いのう』 奥ん二人ん荷を見ち冷やかすと 『そうかのう』 ちっと気がねしち言うと 『うそじゃお前どうんが一番いいど』 こんだ褒めたもんじゃき 皆んなも笑ろうた。



故郷にゃ伝わる民謡も多い 民謡は唄じゃねえ生活ん声
じゃき 勘違いするしが多いが 文字じゃねえけど思い
を伝ゆる 一番確実じいい方法が 『生活ん声』じゃつた
んじゃあるめ一か。内容にも労働あり祝いあり 切なさ悲
しさやるせなさ 喜び嬉しさ なんかもガイト入っちゃう
んが 民謡、生活ん声じゃろう。

夕飯が決まっちこれじゃつた時代 そこにゃ米節約と
栄養価も消化もいい『ダンゴジル』がある。『ホウチョウ
』とん呼びよった。それを炊く時ゆう歌いよったんが
こん『ホーチョヌベヌベ』

- ◎ ホーチョヌベヌベ今夜の夜食 早くぬばねば夜が明ける
ソレエヤ ソケエヤ ヤトヤンソレサ。
- ◎ 盆の16日 おぼんかて行ったら なすびきりかけ フ
ローの煮しめ ソレエヤソレエヤ ヤトヤンソレサ。
- ◎ アン娘年頃 姉さんかぶり ホウチョぬぶる手の品のよ
さ ソレエヤ ソレエヤ ヤトヤンソレサ。

朝早う草切りに行った娘たちも やんがち日が暮るる頃
にゃ コイサン夕飯んシコするが 大体決まったもんじゃき
慌つることあねえ。手際ゆうなっち時んめに出来あがる。時
ん材料見つくろうち寝せた ダンゴう上手に延ばすもんじゃ
き 隣んじいさまが『もう嫁ごに行つてんショワねえのう』
『知らんで』 むげに返したが悪い気はせんじ いつになる
んか相手は誰か嬉しいような 不安なような交差する乙女心
が 仄かに揺れ動くもん。

諏訪ん里が目の下に見えち 昔か
る開けた文化ん花が今でん 受け継がれち来たんが解る。そ
うこうするなかめ石畳道ん 上りばなん坂口に辿りち一た。
ここかる石う踏みしめち上る坂が 櫃山まじ続く途中にゃ緑
陰あり 水しぶきん滝あり眺望もいいき 休憩しながらん道
がいいもん。

瀬戸越えの難所

瀬戸越えするにゃ陽のあるうち 夜ん瀬戸越ゃ命がけち
言われるごつ 大昔しゃ越すにい難渋しよった。馬が道う
踏みはずすと谷い落つる。上りつむるとこんだ谷い下るち
言う 連絡道路でんあつた。山ん寺がこん瀬戸う向いちょ
つたき 祈願したら向きを変ゆるごつ言われ 方向を変え
たら馬も落てんごつなつた。

何年も過ぎち土取りん高台は
低うなつち 瀬戸越えよりゃ土取り越えが 楽になつち表
ん雨川やら長野やらにゃ 便利なつたもんじゃき 瀬戸越
えはやんがち少のうなつた。そん頃ぁ大田⇨瀬戸《街道》
雨川⇨塩出野んコースが 街道と交差した幹線でんあつた
。

そん頃ん話によりゃ 『瀬戸にゃ砂まきが出る』ちゆう
言いよつた。暗がりん坂道じゃき鼻をつままれてん 先ぁ
見えんもんじゃき ビクビクしながら歩きよると パラパ
ラ音がすると砂がどこかるか ツージ来る。たまがった拍
子『わぁー砂まきじゃ』 こっけむくりツージいぬる。

怪物んワヤクか物取りか それとん動物ん夜んウゴメキ
カ それじ砂が落つるんか それとん灰が舞い上がるんか
。このへんにゃ阿蘇ん火山灰が がいと降り積もつちよる
き そいつが風じヒョイトすりゃ 動き回る動物ん飛ぶ時
い 飛び散るんかん知れん。とにかくオジイーそげな気持
ちん時にゃ いろいろ考え出えち見るもんじゃき。

諏訪神ん奥方をまつる奥の院 始めは奥の院の西側い
たたずまいされちよつた。そこかる見る直線前方にゃ ヒ
ュウガセち呼ばるる乗り越えが 馬が通るとそん尻べらが
見ゆる。心乱したんか馬ん事故がここじゃ 耐えんじゃつ
た。

古老がこりゅう知ると『奥の院を少し動かしちほしい』ち申し入れたんじゃ。元ん山寺ん東に移したところまもねえ事故やら怪我ものうなつち言う。奥の院も諏訪ん森の中を望んじよつたようじゃがそりゃー入れられんじ山の寺奥の院になったそうな。

諏訪ん聖地

諏訪明神ぬ捧じち下向ん際こん地に辿りち一た対馬守あある時貝殻岳よりん光明を受けそん光る先が諏訪ん森じゃつたきこくう安住ん地としち鎮守したち言う。貝殻岳かるは1里ん所近くに引き寄せたかったんかん知れん夢んごたるロマンもある。貝殻と呼ぶ山や地名とを考え合わすりゃ尚更古いよき時代ん人人ん営みが浮かびあがちくる。

諏訪神社に流れくうじよる水は諏訪ん森かる湧いちよる。奥の院の井戸にも近所に住むしたちん家にも石板盤の上を流れち利用されちよる。美しい水う口に含むとなんとん言えん大自然の有難さが味わえち『知童ん水』ち人は木陰う潜ち来たぬ口に吸い込むと長え歴史ん味と夢がバット広がちくる。地下水ん温度じゃき夏は冷とうじ冬はほんのり温けんもなんとん言えん親しみまじ味わゆる。

瀬戸越えがよだきかりゃ土取り越しすりゃチックタ楽に越せる。肥後往還に上りつくとあんげこんげスルしが多いのんやっぱ府内に近えし竹田でん久住でん日帰りも出来る。『三佐かる竹田まじゃどんくれえかな』『三佐かる竹田は13里で』『そうなおおきに今朝がた野津原じ聞いた時もそげ言いよつたに』ここじ聞いてん温見じ聞いてん返事は一緒『三佐かる竹田は13里』

水車小屋ん蜘蛛んエバ

水ん力は人間の考えられんごたるもんがある。『器にゃ従いながら岩が根も 通すは水ん力なり』ち言う。ほんのちっとう水でん寄せ集むりゃ 石臼でん米つきでん平気ん平ちゃら。近いうちアルク娘が粉挽きしちよる。腰かけたそん目をじっと見透かすごつ それでん心ん中は浮き沈みん心境じゃろう。

嬉しいような不安な気持ちん揺れ と そっと入っち来た顔なじみん ちいさんがひげ面に愛想ゆう 『どうかもう嬉しかろうのう』『知らんで』遠慮ねえもんじゃき こげな返事になった。そこは心得たもんじゃき 腹を立てたたゝ思わんけんど気持ちも ゆう解るき『しもった』ち思いもしちよつた。

『腹うたてたんか 断わっちゃろうかのう』 そこまじ言わるりゃ泣きたくもなる。『断わってんいいで』真顔になっち 『すまんすまん』照れ臭かったような 側に寄っちくると 『やっぱいろいろ考ゆるんじゃろうのう』『そうで』 そこまで言うとしっと見返した。『やんがんそん顔 俺は一番好きじゃがのう』

二人は顔見合わせち どっと笑うた。『おかちゃんな元気がいいんか』『まゝな こんところチット風邪気味じ』『なんや そりゃ悪いのう 後じタンニ行こうかのう』『ご馳走持ちきてな』『やんが好きなぬのう』 それを言われると何か 切なさが胸を締めつける。コンメエ時かるムドガラレタ そしち嫁にアルク なし人間な生まれた所におられんのじゃろうか。

ゴトンゴトン音が響くたんび 蜘蛛がかけた 網ん巣が白模様を動かし何か言いたげに。

こんなに声をかけてくるる そげな人のいる幸せ人生と
解ちよるにと 自分を責めたりもする 切なさ。女性と
して嫁ぐ子供が授かる それが人生の幸せと思うと 当然
の歩みなのかん知れんに。とじっと横目でひげ面を見る。
この人なりん苦勞をくぐり抜けたかる 人の事を心配したり
も出来る やはり素直に聞くのが礼儀じゃろう。

『さっきは ご免な』『やゝ何か 素直じゃのう 心配
せんでんヒョイトど 悪かりゃ戻っちきい 心配せんでん
いい』 いじらしい娘がアルクのん 何か取らるるような
気がする それだけにやっぱ心配なんじゃろう。水車ん音
にかき消さるるような 愛情が行きつ戻りつする小屋の中
。

『いつじゃつたかのう お前が熱で一ち冷やしちゃつた
なゝ』『あん時ゝ死ぬるかち みんな言いよったに』『そ
うど じゃき元気者になったんじゃき 長生きしち幸せに
ならにゃの』『うん』 『そりーシメシユ換えた事もあつ
たんど』『えーふんと そりゃー知らんじゃつたで』『何
や それが一番おもど』『はいはい ありがとうございます
ました』ほんのり顔が赤うなったんも まだ乙女じゃき
恥ずかしさが……。

『お前かたん粉がすれたど』『ふんとなえ えーと』
早う片づけにゃ急くんじゃろう』『いんにゃいいど お前
と話すのん 神さまが作っちくれたんかん知れんのう』
『ふんと うっとも今そげ一思いよった』『じゃろう』
別れとぅねえような 見送らにゃならん人生。でん元気さ
えしちよりゃ 又合えるる 『オカチャンぬお願いするき
な』『心配すんな 元気しちよれや』『……』 涙に咽
んだんか返事につまった。旅立ちじゃき俺は笑うど 自分
に言い聞かするけんど頬にゃ 一筋熱いもんが流れよる。

★ 方言説明 78P ●どげー…どうです。ちよってん…
そうしていても。やんな…お前は。そうとん
…そうですとも。はりこむのう…精がでますね。

79P ●そげしよるなかめ…そうしている間に。ヨダキイ…大義な。ふんな…それなら。そかそれじ…それはそれなりに。ノコギン…野良着。しよわねえ…大丈夫。くれちよるき…いただいているので。イヌルド…帰ります。オラブ…叫ぶ。ビシヨ濡れ…しっかり濡れた。

81P ●向いちよつた…向いていた。よりゃ
よりも。じゃき…ですから。やんがち…やがて。ツウジ…飛んで。こっけむくり…慌てまくって。ワヤク…いたずら。ヒ
ョイト…急に、もしかして。オジー…怖い。

82P ●こりゅう…これお。のうなつた…なくなつた。ちーた…着いた。こくう…ここお。したちん…人たちの。石板盤…川そこが固い石の板のようになっている。よだきかりゃ…気が進まなければ。チッタ…少しは。あんげ
こんげ…あってこっち不安定。どんくれえかえ…どのくらいなの。

83P ●アルク…結婚する。じゃき…ですから。そうで…そうですよ。やんがん…お前の物では。おかち
やん…母親。タンニ…見舞いに。コンメー…小さい。ムドガラレタ…可愛いがられた。

84P ●そうで…そうですよ。シメシュ…お
しめ、おむつ。えーふんと…びっくり本当。じゃろう…でし
ょう。

旅の人も五助さんがん物知りち言うか 頓知も混じつた話
に釣りこまれち 楽しい旅が続いちよつた。野津原ん宿う出
ちヒトトキこれかる 坂道が続くが五助さんとん 旅にゃヒ
ジータァ思わん楽しみな時が 流れよつたもんじゃき こん
まま久住まじ連れのうち行きたかつた。

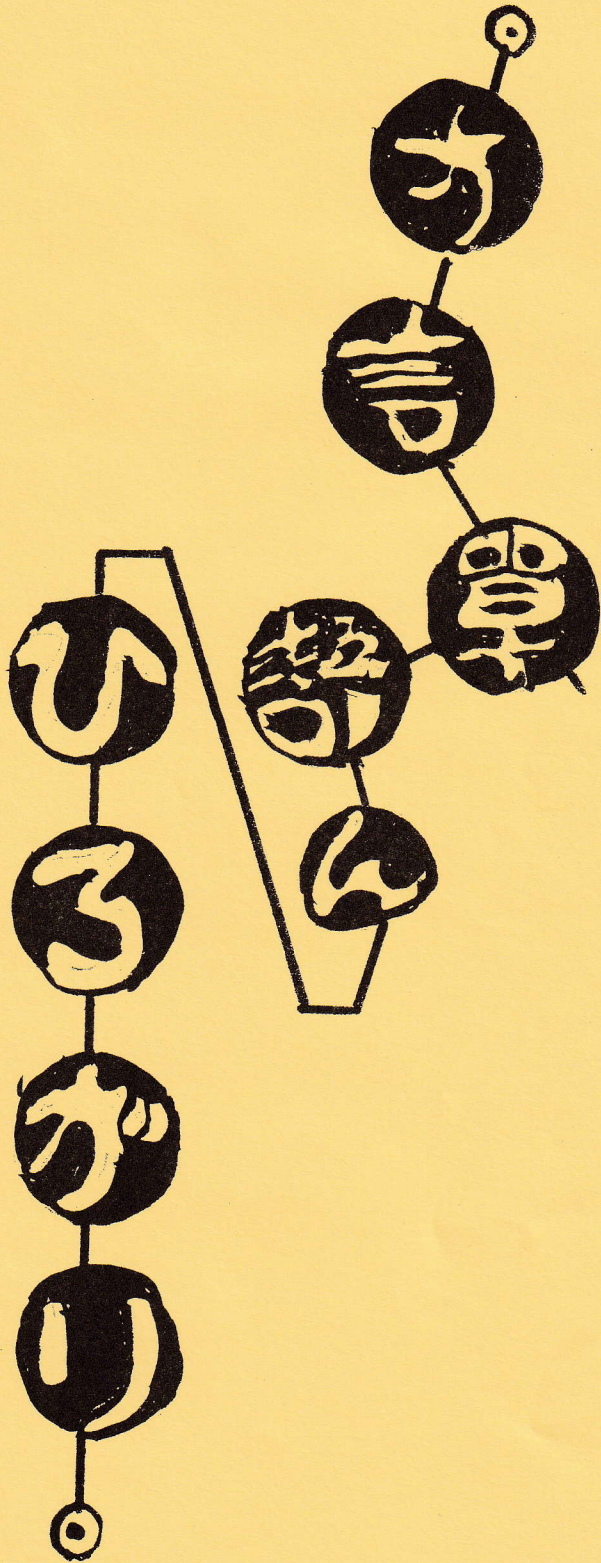
旅は道連れ世は情け…昔かる人間な一人じゃ生きちよ
られん動物。人に支えられち
ちっとオコガマシイカナ 一言 言いたかったかんか。
人も支えちこす 生きちよられもする。旅も全くそんと
おりじ道中が あぶねえ時でん心配もねえ 支えにもな
ちくるるもん。ましてや五助さんのごたる 物好きち
言うとおコルカン知れんが 物知りじ頼知がゆうじ 笑
顔じ物怖じもせんき 頼るるごたる道連れでんあった。

一の瀬じ出合うたんも人ん 巡り合わせかん知れん。
いつんなかめ一か坂口まじ来ち 坂道いさいかかると
『イブ絞っちょかんでんいいな』 はじめは解らんじゃ
ったが 顔う見ちよるとニコリ それじすぐ解ったんも
知恵が 心が伝わっち来るんじゃろう。

『石畳が続くで』『馬は爪が痛うなりゃせんですか』
『しよわねえんで もう慣れたもん ヒョイトスリヤ
石んほうが痛えち 泣くかん』『りゃ一面白いことを』
幾つが曲がっち木陰に入った。岩肌かる糸う引いたごつ
流れ落つる 美しい水に散った木の葉が ヒライ舞いく
うだ。左手は水垂…ミッタレち呼ぶ。

こん先んデーレなると 茶店があるき一服しちイル物
がありゃ 買うちょかにゃイットキ 家もねえじそん代
り眺めはいい 『横道…ヨコドウ』が続く。ゆうしたも
んじ影へらにゃ 清水がチョロチョロ出る。カンカラん
葉を二つに折っち掬い飲み。これが又ウメーノナンノ。

『こん続きゃ又楽しみにしちよくれな』『名残り惜し
いな』『逢うは別れん始め 別れは逢うまじんハジマリ
ち言うじゃろう』『なるほ一ど そっじゃなあ』



方言のひろがり 『あ⇒ら』から『あ⇒ち』まで。

同じ『あら』でん 吃驚した時に挙げる言葉。
魚のそのままの姿。
魚の骨などの身の少ない部分。

『いえ』でん 住居の家。
言葉の 言いなさい。
言葉の 嫌です。

『いき』でん 呼吸の息。
行く場合の言葉。
新鮮さのイキ。

『いた』でん いました。在宅。
板張りなどの表現。
急に痛みを感じる咄嗟の表現。



方言にゃこげなふうにならう場所や文句の上や 下につく
ときに 意味が相当変わって来る。文字に書けば解っても
話す語る場合には 誤解するような事にも なりかねない。
だから『方言には情愛がこもる』と 古くからよく言われる
所以でもある。後でじんわり味が滲み出る。

早口でん親しい人たち 解説でくるが 知らん相手ん
場合は誤解も生じるもの。じゃき豊後の言葉は荒えち聞く
が根底には『情愛』が 優しい気持ちが込められちよる。
ただ言い回しが下手かも。然しそれも時にゃ『専制攻撃』ん
防御 赤猫根性と言わるる原因か。損を承知で使った先人の
苦肉の策かん。分かれば優しい優等生でもありそう。

方言の広がりゆここまで 取り上げたんじゃが ふんときり
がねえごつ生活用語としち 使われよったんが ゆう解る。
あ⇒ア かる あ⇒ラまじ来た分が 約1280語あまり。ほ
んな続いち行きますき お付き合いしちよくれな。

あ⇒ラ

アラリュウ……あると思うが、ありそうじゃが、恐らくある。
アラシコ……遅しい人たち、元気者が揃った、雑多に計って。
アラレメー……ないでしょう、考えられない、無いが強い。
アラシルトル…田植えの植えつけ準備、植えつけ前の仕上げ。
アラレン…ないでしょう、予想も出来ない事で、無いが強い。
アラアラ……大体の、何人かに、ところところ、吃驚する。
アラカタ……大体において、ほぼ完成、粗雑だが、一通りは。
アラメジャ……目が荒いが、大きな空間が、粗雑な仕上がりが。
アランハズ…無いはず、考えられない、ありそうには無いが。

アラマシュ……粗雑な仕種、雑に進める、とりあえず整理。
アリヨセンチ……多分間にあわないので、無いと思います。
アリアマルホズ…沢山ありすぎて、余分に出来て、予想以上。
アリュマジイ…あれも入れて、それも混ぜて、追加に味付け。
アリヤノウ…あれはですね、そのものの、詳しく説明すれば。
アリモセン…無いのです、全くないから、無くなってしまい。
アリヨリヤ……あっていますから、あるようですから、ある。
アリシコジ……今あるだけです、手持ちの分全て、これだけ。
アリヤシモウタ……うっかり失敗、つい間違えて、失態の程。
アリデン……あの人にでも、あの子にでも、渡すかあげるか。

アリガトデン……喜ばれれば、お礼を言われると、役立った。
アリョアツタケ…あるもの全て、全部、集め回して、集める。
アリヨルデ……あっていますよ、開催中、始まっている。
アリュミヨ……あれを見なさい、あんな格好はしないように。

アリモセンジ…ありもしないのに、無いのに、根拠のないのに。
アリモセンニ…無い、ありませんよ、無いのが解っているのに。
アリツタケ…全部、全部集めた分、すべての、みな出して。
アリツキャ…無事に落ち着いて、根づく、花嫁さんが結婚する。
アルコタアッテン…あるのはあるけれど、手持ちだけれど。
アルゴタッチ…あるようで、見かけのようには。見かけ倒し。
アルキチュウブ…歩く癖がついて、常に歩きたがる、歩行癖。
アルイチクリャ…歩いてくれば、徒歩で来るよう、歩きながら。
アルダケデン…あるだけでも、準備してある、持ち合わせだけ。
アルナライイキ…あるならよいから、必要がなければ。

アルシコジャキ…あるだけですから、すべてを、これだけです。
アルタユウタガ…あるとは言ったが、実は無かった、うっかり。
アルケンド…ありますが、あるのはあるけれど、手持ちしてる。
アルメーキ…ないだろうから、ないようだから、困るだろう。
アルジャロ…あるでしょう、あるはずだが、あると思うから。
アルクント…歩くよう、歩きはじめて、歩きが出来る。
アルンカン…あるようです、あるかも知れない、ありそう。
アレコス…あれならば、あれじゃから、あれでしたから。
アレデン…あの人でも、あれならば、あんな事でよいなら。
アレグレワ…あれくらいなら、あんな事なら、あの程度なら。

アレنجョウワ…あれだけでは、餅つきの取り粉だけでは。
アレクレンコツ…あのような事だけで、簡単な事なのに。
アレニコ…餅取り粉、あの人の子、あの夫婦の子供、あの子。
アレドマ…あの人たち、あの人たちなら、あれなら、あの物。
アレーナコマル…粗いのは困る、荒い跡は迷惑、粗雑は悪い。
アレタナ…荒れた畑は困る、気質が困惑している状態、廢墟。
アレタン…荒れた田んぼ、荒らしてしまって、乱暴になって。
アレテン…荒れていても、風雨に曝されても、苦勞潜り抜けて。
アンヤタ…あの方は、あの友達は、見下げた言葉使い、親友。
アンコガ…あの子ですか、さすが育ちが、見上げた者、予想外。

アンミチャトイ…あの道は遠く、距離が遠いだけに、話は出来。
アンムリャコタユル…あの無理したのはこたえる、無理は禁物。
アロサガセ…人の欠点を捜す、人間性が悪い、人の振り見て。
アロミッキー…人の欠点捜し、根性が悪い、誰にも欠点は。
アロースノウ…荒くしては可愛いそう、乱暴はよくない。
アローアッタケ…あるだけ全部、すべてを揃えた、あるもの。
アロミスナ…欠点を見せないように、人には欠点がある。
アローヤッチ…荒々しくして、乱暴は下品、嫌われ役はどうか。
アローモンナ…あるならば、あるもの全てですよ、全部出して。
アロニチ…魚のあら煮、あらは見かけよりも美味しい魚。

アワズユウナ…冗談いっては笑わせる、冗談ばかり言って。
アワスリャイッショ…あせれば同じ事、割れ鍋にも閉じ蓋。
アワワタネエ…くたくたに疲れて正気の沙汰なし、疲労困ぱい。
アワレンデン…会われなくても、会えなかったけれど機会は。
アワセチイッカ…協調、足せば一つに、合わせて一つにする。
アワモチャ…粟が入った餅、泡で包んだ食べ物、泡菓子。
アワメシャシャケ…粟の入った飯には鮭がよく似合う、相性。
アワレンデン…会えなくても、会えなかったけれど、機会は。
アワレンムゲネ…会われなく可愛いそう、再会ではず悲運。
アワンゴタルキ…粟に間違いない、粟のようですよ、泡のよう。

アワンナクヒケ…粟の中の草取り、泡畑の除草作業。
アワンナユウシヨ…会わないのは調子合わせて、組み立て上手。

い

イインカ…よいのですか、承知したのですか、了解しました。
イイケンド…よいけれど、承知したものの、構わないから。
イイキミ…よい気味じゃなあ、してやったりの気分、苦笑い。
イイコチ…よいことには、いいあんばいだ、しちやったり。
イイドチ…よいですよと、承知したので、構わないからと。

イイクレ……よいくらいで、丁度よいようで、中途半端な。
イイヨッタ……言っていた、側に寄ってくる、話していた。
イイニ…よいのに、よいですから、間に合っています。よい。
イイグレーカ……よいですよ、有り難う、お構いなく。
イイラシイガ…よいようですが、上等のようです、元気です。
イイエナコト……とんでもないこと、違います、嫌いです。
イイナリサゲーチ……言って歩き回る、おしゃべりで困る。
イイタカブッチ……よいぶりっ子で、自慢げに、えらぶって。
イイコツ……よいことを、よいではないの、良策、アイデア。
イイエットナ……とんでもない、そんな事はないです、誤解。

イイナエ……よいですか、よろしいですか、承知して、内諾。
イイデ……よいですよ、了解しました、構いませんよ、結構。
イイノ…よいですか、大丈夫ですか、元気になった、よろしい。
イイデータラ…言い出したら、ままにしておけ、手前勝手に。
イイネジデチ……高値で売れた、予想以上の高値、収穫あり。
イイカブル……言い過ぎて引きこみがかぬ、失言の失敗。
イイキル……言い切つてよいの、ひき込みがかぬ発言。
イイトウデン…いいたいけれど、内気で言えない、発言が苦手。
イイチュウタニ…よいと言つたのに、構わないで、遠慮する。
イイカブラニャ……言過ぎに用心を、失言で信用低下、失言。

イイグレコナス……憎しみこめていじめる、無理にいじめて。
イイシガオンノ………相手がいるの、好きな人がいるから。
イイユウテン…よいと言つても、控えて返事したので、礼儀。
イイグレンコツ…調子のよい発言、世渡り上手で、言葉の綾。
イイグレタチャ…時間が過ぎると、いつの間にか、時の流れ。
イイシコイヤ…言うだけ言つて、無責任な発言、勝手な発言。
イイシニャ………よい人には、相手がよいと、相手を選んで。
イイグレジ…調子者で、あまり宛にならぬ人材、深入り用心。
イイヤイコ………口あらそい、喧嘩の心配、論争が激しい。
イイクレン…調子者で、あまり信頼がおけない、宛にならぬ。

イウナァヤシイ《ゆうなゝやしい》…言うのは簡単、言葉の綾。
イウカラ《ゆうから》…言うからには、言えば責任も、発言。
イウキー《ゆうきー》………言いますから、言う以上は、挨拶。
イウフクメチ《いいふくめち》……納得させて、詳しく話して。
イウケン《ゆうけん》……言いますから、発言します、言えば。
イウコター《ゆうこたー》……言わなくても、言う必要はない。
イエニャオルガ……家にはいますが、家におりますから、在宅。
イエメケンド……言えないだろうが、言い難いだろうが、苦手。
イエレンゴタリャ…言えないようなら、恥ずかしくて、気の毒。
イエマジキテン……家まで来ても、不在の 때가、気の毒だから。

イエンソベクルカ…………近くまで来ますか、近所に来るなら。
イエルリャ…言えられるなら、言うのに不自由なければ、話せる。
イエンゴツナリャ…………言えないようなら、話せないのなら。
イエドマタチー……家ぐらい建てたら、自家持ちに、新築する。
イエカル……家から、家を建ててから、まず家を先に、家こそ。
イエキリャ…はっきり言えられる、断言出来る、自信があるから。
イエキル……発言ができます、はっきり言えます、断言できる。
イエゴミ…………家も含めて、家ぐるみ入る、家も一緒にして。
イエグレ………家ぐらいは、家ならすぐ出来る、言うのは簡単。
イエテン…………言えれても、言うのは簡単だが、実行は難問。

イエタンカ……言えましたか、言うのはやすいが、もう大丈夫。
イオセンインダ……言ったかと思ったら帰った、言うとすぐ帰る。
イオウチサンゴウ…………皆んなで祝って、回りの情愛祝い酒。
イオウチモロウタ……祝ってもらって、皆んなでお祝、祝い事。
イオゼージセニャ…………胃を大事にせねば、胃腸が健康なら。
イオドチカマエチ……言うつもりで待ち構え、手ぐすね引いて。
イオチクルリャ……祝ってくれるなら、有難い事です、祝いの礼。
イオーモンナラ……祝うものなら誰でも、みんなが喜んでくれて。
イオーカノウ……言いましょうか、早く言いたいが、勿体つけて。

イオカウ…敵に土寄せをする、苗に土を寄せかける、苗の保護。
イオウチ……祝って、お祝をする、祝い事、めでたい座敷の様。
イオモンナラ…言うものなら、問題が起こりそう、気に食わぬ。
イオコーチョケ…土寄せをしておいて、苗の保護に土を寄せる。
イオチャレ……祝ってあげなさい、お祝をしてあげましょう。
イオセカシチ……胃が痛み出して、胃痛が起こって、胃腸病。
イカンチュウカ……行かないと言うか、ゆかないのでしょうか。
イカンクシホギユ……行かないのに文句は多い、入らないのに。
イカルリヤイイガ……行かればよいが、行けずに残念、不運。
イカセンゴツ……行かせまいと、行くのに反対、邪魔して喜び。

イカニヤクル……行かねば来るから、勝手にすれば、迷惑な話。
イカンウチヌグナ……頂点にならずにやめる、相手も考えねば。
イカンゴツナッタ……行かないようになる、中止になった。
イガセン……鉄条網、防護策、立入り禁止、外敵を防ぐ。
イカセキマワス…胃が痛み出して、急に胃が痛む、激痛が胃に。
イガグリヤ……いがのついた栗は、落ちたばかりの栗の実。
イカンナラン……行かねばならない、行く用事が出来た。
イガツキガイド…栗の実りがよいようで、いがが割れたよう。
イカンデン…行かなくても、出向かなくても、きっと来るから。
イガドママムケ……いがを剥いて栗をとりだす、栗の収穫。

イガセク……胃が急に痛む、飲み当たりか、食い当たりか。
イガンジョル……曲がっている、ゆがんでいる、曲線になって。
イガミタクッチ……まっすぐでない線、曲がった線、曲がりに。
イガラゴエ……声がかすれて、声帯をいためた声、異常な声に。
イキシヨル……生きている、健在である証、呼吸している。
イキガキルル…途絶える息、呼吸困難になって、途絶えたのか。
イキンナゲヤツ……長い間息が止められる、息長の訓練。
イキタキャ……行きたいなら、行くようなら行けば、出べそ性格。
イキタカリヤ……行きたいなら、出かけたければ。

イキタガルキ………行きたいと言うもので、行くのを希望する。
イキュトムンナヤ…息をするのを止めないで、呼吸停止は駄目。
イキツキャゴクラク…終わってしまえば満足、終わりよければ。
イキュウツクヒマン………ゆっくり休憩も出来ぬ、多様すぎて。
イキチョリヤ………生きていれば、死んで花実は、苦労の後に宝。
イキシコ…行きつくまでは、行けるだけ行く、最後まで頑張る。
イキナタリ………でたらめな性格、大ざっぱな、なりふり構わぬ。
イキサキャシレ Chol………最後はわかっている、結果はどうも。
イキチータカ………行きつきましたか、無事についたの、大丈夫。
イキクションノ………息はしていますか、体調は大丈夫、呼吸は。

イクチナッテン………いくつになっても、年は取っても、成長が。
イクランデ Chol…………少しも出てない、発芽が少ない。
イクナイチドキ………行くのは皆んな一緒、いっぺんになって。
イクルナヤオネェ………生きてゆくのは大変、埋めるのは苦労。
イクマジマツ Choke………行くまで待って、早く行くと駄目よ。
イクノンヤオネェ………行くのも楽じゃない、達成は大変な事。
イクタユウタガ………行くとは言ったが、行けなくなって、ご免。
イクルモシヌンモ…生きてゆくのも死するも、生死は苦労続き。
イクカン………行くかも、行けないかも、絶頂になるかも、未定。
イクキジャ………行く気持ちのようで、ゆく準備して、行く予定。

イクグレ………行きますとも、行く予定にしてる、行くぐらいか。
イクカル………行きますから、間違いなく行く、頂点になるから。
イクテガ…行く手はずが、行く口実ができたので、手法がある。
イクヌ…行くと言うのに、行くのを取り止め、行くのを断わり。
イクデン………行くでもないよう、行く気がない、気が進まぬ。
イクシニ………行く人に、行く人たちに、行く人に依頼するから。
イクヨリヤ………行くよりも、行かなくても、他の人に頼むから。
イケチョキャ…埋めておけば、活かしておけば、生かしておけば。
イケウチチュウガ………親戚と言うが、身内と言うけれど、不審。

イケカキジャキ……墓の穴掘りだから、土葬の穴掘りだから。
イケタケカセ…硯だけ借して、硯が借りたいので、硯だけで。
イケレメーゴタル……行けないようだから、無理なようで。
イケルリャイク…行けるようなら行くから、都合つけば行く。
イケチョリヤ…活けておけば、埋めておくなら、生きている。
イケカキュウ……穴掘を、土葬の歳の墓穴掘り、穴掘り作業。
イケキッタ……埋めました、活ける事もできた、活けて満足。
イケグレ……硯くらいなら、池くらいは、活けるくらいなら。
イケゴミ……池までいれて、硯までまとめて、硯もいれて。
イケノニ…埋めたばかりなのに、活けたばかりで、活ける側。

イケイケ……走れ走れの応援、進む進む、行きなさいよ。
イケタカ…活けましたか、埋めましたか、活け込みしました。
イケメーカー…行けまいか、活けないでしょう、埋めないから。
イケンハテ…池の側に、池の端に、硯の端に、行けない上に。
イケレテンイカン…行けても行かない、維持からでも行かぬ。
イコドチ……行くつもりで、行く準備しながら、ゆく予定で。
イゴクニャ……動くのには、移動に、動いて試す、動く心配。
イゴイチ……動いて、動かして動く確認、動いているから。
イゴカシャ……動かないと、動かしてみれば、動くから心配。
イゴケーチ…動かしてみれば、動くのを確認する、動くから。

イコモンナラ…行くものなら、ゆくのはよいが後が、決末が。
イゴイテンコマル……動いても心配で、動かないと不安でも。
イゴケルリャ…動ければ、動くようにあれば安心、動く喜び。
イゴカンデン……動かなくても、動いていれば安心、心情。
イゴキメーゴタル……動かないようで、動いてくれたなら。
イゴクルカ……動けますか、動けたらと期待、動ける幸せ。
イゴイチミヨ……動いて見なさい、動ける安堵、回復の兆し。
イゴイタンカ……動いたよう、動かせた、移動ができた。
イゴクゴタル……動くようです、動いている、動かせた快感。

ウ⇒サ

イサブリマワス……揺らす、乱暴に揺らして、荒く揺らして。
イサムリヤリコウ………暴れては困る、静めさせれば利口者。
イサギユジコマル………あっさりしすぎも困る、素朴すぎて。
イサミデータラ…暴れだしたら、乱暴でも大変、暴れも程度。
イザンヌマテ………茹でるのを待つて、茹であがったら。
イサブル…乱暴に揺らす、揺らしまわして、揺らすのは程度。
イザリ ※ ………足の不自由な人、徒歩が困難な人。
イサギヤツ………あっさりした性格、平凡で単純な性格。
イザッチナリヤ……茹であがったら、茹でたあとから味付け。
イジュミシ………意地を見せないと、意地があるだろうから。

イジジコスヨケレ……意地でよかった、法外な主張は迷惑に。
イジバリヤシズム…意地も張りかたで損する、人並みが無難。
イシグレバタケ……石が多い畑、石が多いから乾燥はよいが。
イジンハリアイ…意地張り勝負は様ならぬ、付き合い上手に。
イジュウセキトムル…水路をせき止めて、水の流れを止める。
イジギタネエ………根性が粗悪、貧乏性、人に不快感を。
イジガキンコツブ………石垣の小粒は脇役、小粒でも役立つ。
イジッパル………意地が取り柄の変わり者、目だちたがり屋。
イシツミヤ………石を積むのは技法がいる、目に見えぬ所が要。
イジジャロウト……意地も役せぬ時も、意地だけじゃ通らぬ。

イジモホラケー………意地も弱い面もある、意地の空手形。
イズリシテンコマル………いずれにしても困る、幼稚な考え。
イズワッチノヤ……座り込んで何を、要領なしでは嫌われる。
イズリヤクワリュウ…茹でたら食べられる、茹でてそれから。
イズーツクロウ……水路の補修、水路修理、日ごろの管理が。
イズレリヤハエ………茹でたが早い、茹でておけば応用も。
イズルソベ………茹でている側に来て、茹でる方法の勉強か。
イズルント……茹でるのです、茹でて使い分ける、茹で料理。

イゼンモロタ……………前に頂いた、この前もらいました。
イゼサラユ……………水路の整備作業、水路の点検補修、水路掃除。
イゼタラクワシ…茹でたら食べらせて、ゆがいたら食べらせ。
イゼンツクロイ…水路補修整備、水路の管理補修、水路修理。
イゼモチンコビリ…茹でた餅の午前中の茶うけ、昼前おやつ。
イゼンドテジ…水路の土手で、水路の巡回見回り、水路点検。
イゼブシン…水路の補修点検、水路の修理補修、水路の繕い。
イゼンハト…水路の端を、水路の点検巡回、水路の故障点検。
イゼングル……………水路の回り、水路の周辺、水路の側や検査。
イゾサラユ…井戸の汲み替え、井戸の清掃作業、井戸の水替。

イソガスリャワリ…急かせてはいけない、慌てさせると危険。
イソギャ……………急ぐと、急かせると、慌てて走ると、急に。
イソガスナ……………急かせないように、慌てさせると危険。
イタドリ……………さとがら、野草で酸味があるが食材にもなる。
イタジキバライ…無事済んだ慰労宴、会計報告の席、反省会。
イダキモウサン……………抱いても手が届かぬくらい、大きすぎる。
イタマンゴツ……………腐敗しないように、傷つけないように。
イタンジョラン…腐敗してない、傷ついてない、壊れてない。
イタバシャ……………板で作った橋、板を渡した橋、板の簡単な橋。
イダキチーチ…抱きついて、包容してくる、抱かれるような。

イダキモウサン……………抱いても手が届かず、抱きついて来たか。
イタトキャ……………居た時は、在宅の時なら、家にいる時には。
イタキリ……………行ったきりで、行ったまま帰って来てない。
イタナイタンカ……………居るのおったのですか、在宅でしたか。
イタミャハエー……………腐敗は早いので、すぐ食べないと。
イチジャネエト……………残念遅かった、一等じゃないようです。
イチバンドリ……………早朝に鳴く鶏、早く鳴く鶏の声、早いこと。
イチョリャコス……………行っておればこそ、行ったからよかった。
イチミリャワカロウ……………行ってみれば解る、行って確認を。

おわりに

前回続編№11号に続いち 肥後街道野津原宿場かる 今市
まじん上り坂ん激しい道中う 馬子ん五助さんがん 話しゅ
つまみくうじ周りん風情 人ん優しい暮らしなんかが 顔う
覗かせた掘割かる⇒太田ん坂口まじ。

矢の原、土取り、瀬戸
越え、諏訪郷、水車小屋、赤岩、石畳、坂口、こげな途中は
ワリカタ平坦じ 家並みん多い所じゃ 品ゆう石が敷き詰め
られちよつた。五助さんがん繰り出す話しにゃ あげな語り
こげな話題。連れのうちたしも 飽かんじそば耳たてち 笑顔
んこぼるるんも 面白いおかしいんじゃろう。

“瀬戸ん地蔵になに願かけた 秋にゃあん娘もアルクのに
ハ 七瀬のせせらぎ サラサラ サラサラ
ホイ、ホイ、ホイ”。

五助さんがん得意な 馬子唄が聞こゆるんわ 連れんしがせ
がんだん かん知れん。竹んさやゆれに 合わるごつ流る
る そん声が 七つん山 七つん谷に 渡っち行くごたる。

石畳ち言う地名がある。なんとんまゝ品のいい 名前じゃね
え。ここかる上り坂ん 石だたみが2つ右に 左に曲がると
櫛山まじ 上り坂になるが 木陰ん中う木もれ陽受けち 水
音う聞いち歩く 馬んヒズメンひびき さやゆれ 水音に
ゆう調和しちよる。

下っち来た人たちも 声かけながら それぞれの用事があ
っちん 旅じゃろうが ここにも悲喜こもごもん 人生ん絵
が写しだされてんおる。さっと吹いた風に タマガッタンカ
小鳥が飛びたつた。

伝言板

←
No. 2 2

いつも皆様の ご愛読によりまして素人
集団が 取り組んでいる 野津原方言集
も 続編12号《通算22号》まで 進
り着く事ができました。ご支援の情愛を
大切に 引き続いて続No.13号の 調査
取捨を継続して参ります。

暖かいご支援よろしく お願い申し上げ
ます。

続編No.13号の内容予告です。

五助街道物語No.3、女性の底力、玉手箱、ふるさとの唄、
ちよいとつぶく、方言こどもの世界、ふるさとん味、
民話伝承、方言単語のひろがり、などの予定にしています

。

厳しい世相の流れの中 ご愛読の皆様には 健康管理に心
くばりされまして お元気な日々を お過ごしご祈念申し
ています。



平成22年10月吉日

大分市野津原 野津原方言調査会会員一同

